第4回 日吉津村議会定例会会議録（第2日）

令和6年12月4日（水曜日）

議事日程（第2号）

令和6年12月4日 午前9時開議

日程第1 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

出席議員（10名）

1番 齊田光門	2番 加藤修
3番 江田加代	4番 長谷川康弘
5番 前田昇	6番 石原浩明
7番 河の中博子	8番 橋井満義
9番 松田悦郎	10番 山路有

欠席議員（なし）

欠員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長 里 英 樹 書記 森 下 瞳

説明のため出席した者の職氏名

村長 中 田 達 彦	総務課長 小 原 義 人
総合政策課長 大 武 浩	住民課長 矢 野 孝 志
福祉保健課長 橋 田 和 久	建設産業課長 福 井 真 一
教育長 井 田 博 之	教育次長 横 田 威 開

午前 9 時 0 0 分開議

○議長（山路 有君） 皆さん、おはようございます。ただいまから令和 6 年 1 2 月第 4 回定例会 2 日目、一般質問を開きます。

開会前に村民の皆様からいただいた御意見、要望の対応について述べさせていただきます。

本年 6 月に開催しました定例会一般質問を 9 日、日曜に日曜議会として開催したところであります。延べ 3 6 名の皆さんに傍聴いただきました。皆様からたくさんの御意見、要望をいただいたところであります。また、それ以降もいろいろと御意見、要望をいただいたところであります。その後、議会で検討した結果、すぐにでも取り組めるものは実施したいと思っております。

中でも要望が多かった一般質問傍聴者の資料充実に当たっては、このたびから質問議員の内容を詳しく掲載したもの、内容としては発言議員が提出しました通告書をお渡しすることとしました。来年 3 月定例会には同様のものを精査した中でホームページにも掲載する運びとしました。また、ハード的な改善要望、議会としてすぐにでも対応できるものは令和 7 年度予算に反映させる努力を既に行っております。御理解ください。

日吉津村議会では、開かれた議会を目指し、村民の皆さんの声を真摯に受け止め、皆様が足を運びやすい議会づくりを目指したいと思っております。より一層の御理解をお願いいたします。

それでは、本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員数は 1 0 名です。定足数に達していますので、これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

日程第 1 一般質問

○議長（山路 有君） 日程第 1、一般質問を行います。

通告者の紹介をさせていただきます。通告順 1 番、松田悦郎議員、この後、9 時から 9 時 4 0 分。通告順 2 番、前田昇議員、午前 9 時 4 0 分から 1 0 時 4 0 分。休憩を挟みまして、通告順 3 番、斉田光門議員、午前 1 0 時 5 5 分から 1 1 時 5 5 分。休憩を挟みまして、通告順 4 番、石原浩明議員、午後 1 時から 1 時 4 0 分。通告順 5 番、江田加代議員、午後 1 時 4 0 分から 2 時 4 0 分。休憩を挟みまして、通告順 6 番、河中博子議員、午後 3 時から午後 4 時。通告順 7 番、橋井満義議員、午後 4 時から 5 時 2 0 分。以上 7 名の議員が質問を行います。

なお、本日一日限りの一般質問としたいと思います。

それでは、早速、通告順1番、松田悦郎議員の一般質問を許します。

松田議員。

○議員（9番 松田 悦郎君） 8番、松田です。

最初に、空き家対策条例設置の考えについて伺います。

令和4年6月一般質問での空き家対策条例の設置についての答弁は、今後の空き家状況を見ながら、必要に応じて検討を進めたいと言われました。最近、新聞紙上で各地の空き家問題について、新聞報道が出ております。例えば大山町、松江市、鹿野町であります。また、令和5年3月には、京都市が提案した空き家税創設には総務省が同意しております。その名称は非居住住宅利活用促進税となっております。いずれも少子高齢化が進展する中で、空き家を有効的な利用のための対応や放置された空き家が景観の悪化を招いたり、悪臭や害虫の発生源であり、犯罪リスクが高いための問題があるからであります。

さて、前回の一般質問の中で、令和3年度に都市計画法第34条第11項指定区域、これは市街化調整区域内の規制緩和区域を拡大し、空き家の解消がスムーズに進むような対策を行っていると答弁をされておりました。また、本村の空き家件数は、令和4年5月時点で33軒とありますが、1軒1軒がもたらす影響は、その隣家周辺に大きく被害が出ていて大変迷惑を被っている実態があります。

そこで、村独自による空き家対策条例設置の検討はされているのか、考えを伺います。また、空家等対策の推進に関する特別措置法の7条、8条、9条の説明を伺います。

次に、除雪対応について伺います。

昨年1月24日から25日にかけて大雪となりました。その除雪対応で、住民の方から対応の悪さに個人的にお叱りを受けております。その原因は、横断歩道に多くの雪が積まれていたり、車が通行する道に雪が積まれていたなどなど、今まで経験したことのないような事態があったようであります。長期予報では、今年は雪が多いと言われている中で、除雪対応策は考えておくべきと考えます。

そこで、除雪対応は最低限ルールは守っていただきたいと思いますが、考えを伺います。以上です。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 皆さん、おはようございます。本日は一般質問ということで、まずは松田議員からの一般質問にお答えをしまいたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

2点御質問をいただきました。1点目が空き家対策条例設置の考えについて、2点目が除雪対応についてということでございます。

まず、空き家対策条例の関係でございます。空き家は議員からもありましたように、防犯、倒壊、火災、衛生、景観、周辺環境への影響など様々な面で悪影響を及ぼしますので、この解消は重要な課題であるというふうに認識をしています。

一方で、この空き家というのは個人の資産でありまして、所有者または管理者は周辺の生活環境に悪影響を及ぼさないよう適切な管理と国または地方公共団体が実施する空き家に関する施策に協力するよう努めなければならないということで、これは空き家対策の特別措置法のほうに定められているところであります。

この空き家の解消につきましては、所有者の御理解と御協力が必要ということになりますけれども、実態を見てみますと、やはり愛着があったりですとか、高齢になられて医療施設や高齢者施設へ入所されたり、あるいは認知症などを患われて利活用の判断が難しくなってくるというようなこと、また、相続問題等々ですね、様々な課題があるというふうに考えています。本村の状況を見てみますと、ピーク時には58軒の空き家がありましたけれども、現在これまで行っております空き家対策によりまして、この12月現在で、村内の空き家は31軒という状況であります。

議員からお尋ねのありました、まずは空家等対策の推進に関する特別措置法の7条から9条について御説明を申し上げますと、まず、第7条ですが、市町村は空き家等に関する対策を総合的かつ計画的に実施をするため、空家等対策計画を定めることができるという規定でございます。第8条は、市町村は、先ほどの第7条において定める空き家対策計画の作成及び変更等に関する協議会を組織することができるという規定であります。第9条は、市町村は当該区域内の空き家等の所在及び当該家屋等の所有者等を把握するための調査などを行うことができるという規定であります。

次に、空き家所有者等に対して行政指導や撤去などの措置を行う際の根拠となる空き家対策の村の独自条例制定につきましてはですが、これは平成27年に施行されました、先ほどの空き家対策の特別措置法に基づき、助言や指導、勧告、代執行に至る一連の対応がこの法律に基づいて可能であるということでもあります。特別に条例を策定をしなくても、この法律に基づいてそうした手続は行うことができるというふうに認識をしています。

村内に31軒ある空き家につきましては、その管理状況もまちまちでございます。中にはきちんと手入れをされているところもあるかと思えますし、そうでもない、そうではないというところ

ろもあるかというふうに認識をしております。そのような中において、今後特に特定空家等になっていくようなおそれがあるものに対し、どのような対策を取っていくのがよいのか、今後の状況も勘案しながら検討していきたいというふうに考えています。

また、引き続き所有者への空き家解消に向けた取組とともに、空き家となる前に相続などについて親族間でお話をいただくなど、空き家の発生防止策の周知につきましては県等とも連携をして取り組み、移住・定住促進のためにもこの利活用を推進してまいりたいというふうに考えております。

次に、除雪の対応について答弁を申し上げます。

鳥取地方気象台の11月発表のこの12月から2月までの寒候期予報によりますと、冬型の気圧配置が強まる時期があるため、平均気温はほぼ平年並み、降雪量は平年並みか多いという見込みになっています。1月下旬から2月上旬は1年の中でも最も気温が低くなるとされており、この期間は特に天候情報に注意をしていく必要があります。

本村の除雪計画では、車道については除雪を民間業者に委託をし、積雪量がおおむね15センチ以上で幹線を中心とした1次路線除雪、積雪量がおおむね20センチ以上となりますと、第2次路線除雪を行うこととしています。あわせて、歩道につきましては、除雪を村内在住者に委託をし、積雪量がおおむね15センチ以上となったときに小型除雪機により通学路を中心とした歩道の除雪を行っていただいています。また、除雪作業が困難な狭隘道路につきましては、4自治会に小型除雪機を貸与し、除雪作業を実施をしていただいております。

さて、議員御指摘の横断歩道に多くの雪が積まれていたということにつきましては、国道9号線陸橋下の県道において、除雪車の通過による雪が横断歩道脇に堆積をしていたことと承知をしています。該当箇所につきましては、米子市の区域となっております、通報いただいた後、直ちに米子市の担当課に連絡をし、横断歩道の妨げとなる雪の撤去を依頼をしたところであります。本年度はこのような事案を防ぐために、米子市と連携を図るとともに、小型除雪機による歩道除雪において、横断歩道の妨げとなるような雪の除雪を行ってまいりたいというふうに考えています。

次に、車が通行する道に雪が積まれていたことに関しましては、車道の除雪において除雪車の通過によって道路脇に雪が堆積していることと承知をしています。車道除雪につきましては、交通への障害となる新雪を直ちに取除く必要があります。限られた除雪車で除雪を行いますので、どうしても除雪車の通過後は道路脇に雪が残るという場合もございます。道路脇に残された雪につきましては、各地区、各自の御協力により御対応をお願いしているところでございますので、

引き続きお願いを申し上げたいと思います。

積雪が予想される際には、防災無線にてこれまでと同じように注意喚起を行っていきたいと考えておりますので、早め、早めの余裕を持った行動をお願いいたしますとともに、広報12月号には除雪作業のお知らせというのを掲載しておりますとおり、路上に作業の妨げとなる車両や障害物を置かないでいただくことや、路上にはみ出している樹木などは作業に支障を来す場合がありますので、所有者で伐採をしていただきたいことなど、皆様の御理解と御協力をお願いしたいと思います。村といたしましても、スムーズな除雪作業により早期の除雪完了を目指していきたいというふうに考えています。

以上、松田議員からの一般質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（山路 有君） それでは、再質問を許します。

松田議員。

○議員（9番 松田 悦郎君） まず、空き家についての質問ですが、前回の質問の中で空き家対策特別措置法の7条、8条という項目がありまして、読んでいましたら、答弁書には8条、9条となっていて、これは間違いだなと思って、それから言ったんですが、この中で7条にこの空き家対策計画というのは県内で何か所なのかと、もう一つ、8条にあります協議会の設置というのは県内で何か所ありますか。分かりましたらお願いしたいと思いますが。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。空家等対策計画につきましては、県内で17の市町が策定済み、また、協議会は16の市町が設置済みということでございます。以上でございます。

○議長（山路 有君） 松田議員。

○議員（9番 松田 悦郎君） これで対策計画は県内で17か所といたしますと、19市町村ありますから、日吉津を含めてあと2か所ができてないということですね。それから、協議会は16といたしますと、3市町村ができてないということです。

ちょっとこの後の質問でまた伺いますが、もう一つ質問ですが、管理不全空き家等の対応については、村のほうはどういうふうにお考えなのか、ちょっとお聞きしたいですが。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。空き家の管理につきましては、先ほど答弁で申し上げましたとおり、基本的に所有者、管理者の方が行っていただくということでございます。これまでも村といたしまして、この空き家の管理でありますとか、あるいはこれを売却して活用していただいたりとかということに対しまして取組を行ってきているところでございますので、これ

は引き続き行っていきたいというふうに考えております。以上です。

○議長（山路 有君） 松田議員。

○議員（9番 松田 悦郎君） 管理不全空き家については、指導、勧告ができるようになりましたというふうには書いてありますが、それも併せて今後、管理不全空き家になりましたら、この指導、勧告をお願いをしたいと思いますが、それから、村内で今31か所だったかな、空き家は。空き家の関係で、言わばネットを見てみましたら、あちこちで当然空き家の問題点がありまして、地震があったときの空き家の対応として耐震診断が、この空き家がされているのかないのかというのを行政のほうとしては把握されておるんでしょうか、どうなんですか。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。これは1軒1軒調査をしたということはございませんけれども、実態としてはされたというところでは把握をしてないというのが現状であります。

○議長（山路 有君） 松田議員。

○議員（9番 松田 悦郎君） されていないということですね。

○村長（中田 達彦君） 恐らくそうです。

○議員（9番 松田 悦郎君） 恐らくね、はい。ということは、今後もされないと、今はされていないですが、今後もその診断というのは確認はされないのかどうなのか、ちょっと分かれば教えてください。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。この耐震診断というのは空き家であるか、空き家でないにかかわらず、これはやはり皆さんが住んでおられるところについてもお願いをして、確認をしていただくというのが必要かと考えておりますので、特にこの空き家につきましても、やはり周りに危険を及ぼすという可能性もありますので、これは引き続き住んでおられる、おられないにかかわらず、所有者の方には耐震診断に御協力いただけるように周知を図っていきたいというふうに考えています。以上です。

○議長（山路 有君） 松田議員。

○議員（9番 松田 悦郎君） 今、先ほど最初に言いました協議会の設置数が県内で16か所ということで、3町村がやってないということなんですけど、この16か所が設置されて、あとの3町村はやってないという、この辺の自治体のやってる自治体とやってない自治体というのはどこに違いがあるのか、分かったら教えていただきたいのですが。

○議長（山路 有君） 中田村長。

- 村長（中田 達彦君） 村長でございます。総合政策課長から答弁を申し上げます。
- 議長（山路 有君） 大武総合政策課長。
- 総合政策課長（大武 浩君） 市町村における協議会ですけれども、こちらは協議会としてはやってない自治体があるということで、どういう違いがあるのかというお尋ねだったんですが、実態としましては、この法律に定める協議会に代えて、その集合体のようなもので協議されてる自治体もあると伺っております。
- 議長（山路 有君） 松田議員。
- 議員（9番 松田 悦郎君） ちょっと大武課長ね、あれが理解できなかったけど、再度ちょっと教えてください。もう一遍お願いします。
- 議長（山路 有君） 大武課長。
- 総合政策課長（大武 浩君） 特別措置法に該当する法定協議会の定義もあるんですけれども、独自にその協議会という名前を使わずに協議されている会議もあるようです。
- 議長（山路 有君） 松田議員。
- 議員（9番 松田 悦郎君） ということは、日吉津村はどういうような位置づけになるんですか。協議会がなくてもできますよということですか。
- 議長（山路 有君） 中田村長。
- 村長（中田 達彦君） 村長でございます。現状、日吉津村ではこの協議会なり対策計画というのは策定していないという状況でございます。

他の市町村と比較するというわけでもないですけれども、日吉津村におきましては比較的これまでその空き家というのが一般の民間の流通に乗って、比較的空き家になったところが次の所有者に売却をされたりということで、転入をされたりというようなことが比較的進んできたというふうに考えているところでございまして、これまで村といたしましても、その空き家活用のためのアンケートを実施をして、次活用につなげてくださいますかというような意識啓発をしてきた、その結果でこれまでの空き家が減少してきているというような状況かなというふうに考えているところであります。

今後、その第7条のほうで空家等対策計画というのがありまして、こちらにつきましては最初にありました指導、勧告とか、行政代執行とかっていうことに限らず、やはり皆さんで空き家を抑制をしていく、発生を抑えていくための取組から始まって、そういった様々な取組を定めていく計画ということでありますので、その辺りの対策計画の策定につきまして、今後検討していきたいなというふうに考えているところであります。その際にはこの作成変更等に関する協議会な

り、その検討組織的なものも必要かどうかというところを併せて検討してまいりたいというふう
に思っています。以上です。

○議長（山路 有君） 松田議員。

○議員（9番 松田 悦郎君） 結局は協議会というか、そういう条例つくるまでの協議会をつくら
ないと、どうもその辺のことが詳しくできないということなんで、それはそれとして、早いこ
とできればなと思ってるんですけども、この空き家問題で私は2回目の質問なんですけど、それま
で私の家の近辺もあるんですけども、日吉津村の中で31軒あると思いますが、この隣家の方の
心配事といいますと、非常に大きいもんがあってですね、本当一番なのが火災が一番怖いと。た
だ、火災は火をつけりゃでなくて、例えば地震で火災が起きたとか何かあったときに、隣家の方
が一番不安で嘆願書出そうやという声もあるような状態なんです。非常にこの空き家の隣家の
方々は心配しておられます。

そこで、この空き家を何年待てば何とか解消ができるのかということの質問なんですけど、ある
ネット見たら、何か違った関係で5年以上はというふうなことが書いてあったような気がするん
ですけど、その辺の何年待てば空き家というのは解消っていうか、そういう措置といいますか、で
きるのかなどうか、ちょっと御答弁をお願いします。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。最初の答弁でも申し上げましたとおり、一言で空き
家といっても様々な状態、状況があるかと思えます。きちんと管理をしておられるところもあれ
ば、それが行き届いてないというところもあるかと思えますので、一概にこの法律のほうでも5
年をたてばどうにかするということではなくて、やはりその個別、個別の空き家の状態、状況
を見て、これに対して対処を図っていくというのが基本的な考え方であると認識をしています。以
上です。

○議長（山路 有君） 松田議員。

○議員（9番 松田 悦郎君） 村長の答弁で、その空き家の方になかなか強制執行できないとい
うのは、その家の愛着があるからというふうな答弁もあったんですけど、愛着というのはどこまで
が愛着なのかよう分からんですけども、愛着という言葉は割合私としてはいいかげんな話のよう
な感じでおるんですけども、この愛着なんていう言葉は我々近辺にしちゃ、非常に隣家をばかに
したような答弁だと思うんですけども、そういう愛着を持っておられる方があるということは今
後ちょっと使ってもらおうと非常に困るなという感じしております。

それで、空き家問題を、今村内で31軒と言われましたが、先ほど言いましたように、いろん

なところで最近の新聞ではあちこちの空き家についての新聞記事が載ってましたけども、結局は隣家がとか、そういう防犯とかが心配であるということからのその市と町の、大山町とかの対応が出たと思うんですけども、この空き家問題を村内を全体を見るのではなくて、個々にいろいろ状況が違うと思うんですけども、今言われた愛着の関係もあるんですけども、全体を見るのではなくて、個々にその家、その家で実情に応じた対応をするべきでないかなと私は思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。まずは、愛着という言葉を表現を使わせていただいたのですが、これは一般的な話として、空き家を次の利活用につなげる場所に対する心情的なハードルというか、盆も暮れには帰ってくるので使いますとか、仏壇がありますとか、いろいろな中で、この思い出とか愛着があるので手放したくないという心情があって、これが次の利活用につながらないということで、一般的に言われている話として申し上げたので、そこは御理解をいただきたいなというふうに思います。

それで、議員おっしゃいました31軒のそれぞれの空き家に対してということでもありますけれども、これは同じように考えておまして、やはり最初の答弁で、繰り返しになりますけれども、その状況、それぞれがそれぞれの状態であるとか、あるいは状況、所有者の方の状況等々もあるというふうに認識をしておりますので、基本的にその管理をされているところについてはというよりも、その管理が行き届いてない空き家に対してどう考えていくかということは、やはりその個別の事象に対して検討していく必要があるというふうに考えています。以上です。

○議長（山路 有君） 松田議員。

○議員（9番 松田 悦郎君） この個々で考えていただきたいというのは、空き家も今、村長が言われるように、いろんな状況があって、その隣家は大概、今までずっと見てますから分かるんですけども、いろんな状況の空き家があるので、その辺は全体の空き家として見るんじゃなくて、個々に見ていただきたいなと。この辺は強く思っておりますので、その辺は御理解をお願いしたいと思います。

それから、ちょっと最初、質問の中で言いました京都市が提案した非居住住宅利活用促進税というのを私も若干は勉強してきたんですけども、その辺のこの促進税というのが分かりましたら簡潔に、ちょっと答弁をお願いしたいですが。

○議長（山路 有君） 大武総合政策課長。

○総合政策課長（大武 浩君） では、松田議員からの御質問にお答えいたします。

現在、京都市のほうが若者、子育て世帯の居住促進などに向けまして空き家、別荘などの非居住住宅への新税導入を進めておられます。概要としましては、納税義務者は市街化区域内にある人が住んでない住宅の所有者であります。内容、別荘やセカンドハウス、空き家のほか、生活の本拠を置いている居住者の方がそこに住んでいない住宅ということで、納税義務者になるようであり、税額の計算としましては、家屋の固定資産評価額に税率0.7%を掛けるものと、その底地に対しても敷地の土地に係る固定資産評価額、家屋床面積等に乗じまして税率をかかったものがあります。

ただ、課税の開始時期ですけれども、具体的な時期がまだ未定ということで、令和8年以降の課税開始を検討されているようです。以上です。

○議長（山路 有君） 松田議員。

○議員（9番 松田 悦郎君） この京都の関係は、まだ一、二年先頃かな、公布されるのは。ということで、これは令和5年頃だったかな、この新聞に出たんですけども、これは特に全国的にも波紋を呼ぶなというような感じで皆さん方が関心持っておられるんだらうなと私は思っておりますが、これがもし京都市が実施したら、これに追随して日吉津村も同様な感じでいかれるんでしょうかね。ちょっとそれは聞くだけですけれども、どうでしょうか。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。ちょっと京都と日吉津村の状況、またこれも違いますので、状況をよく注視して、研究をしていくということかと思っておりますけれども、まずはこの税というよりも、空き家の今の固定資産税の減税というような、住宅用の土地の減免ということもあります。まずはそちらのほうを、これも制度的にできているものですので、そちらがどうかという検討が先になるのかなというふうに考えています。以上です。

○議長（山路 有君） 松田議員。

○議員（9番 松田 悦郎君） 最初の質問の中で、前回の答弁の中で、令和3年のときの一般質問での村長の答弁なんですが、都市計画法第34条第11号、指定区域において空き家の解消がスムーズに進む対策を行われていると言われてるんですけども、これは村としてはどのような対応をされてるのかな、思い出されましたら伺いますが、いかがでしょうか。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。これは調整区域の中で住宅が建てられる区域ということを広げたということでもあります。このことによって、これまでは分家住宅というか、その関係者しか建て替えとかもできなかったということでもありますけれども、それが緩和をすることに

よって第三者でも建て替え等ができるというようなことになるということでもありますので、そういったことで、そういったエリアを広げたということでございます。以上です。

○議長（山路 有君） 松田議員。

○議員（9番 松田 悦郎君） その辺はちょっと私は勉強して分かったんですけども、それでの辺のことは日吉津村はそれ以降、どういうふうに対応されたんかなと、ちょっとその辺をお聞きしたんですけども、いかがでしょうか。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。この区画を広げたことについては広く広報しているところでありますし、あと、その空き家の所有者の方に対しましては、これも並行して最初にも申し上げた空き家活用につながるようなことは考えていただけませんかというようなアンケート調査等を実施しているところでございます。

○議長（山路 有君） 松田議員。

○議員（9番 松田 悦郎君） 空き家対策についての質問は以上なんですけども、いろいろなことを言いましたけども、結局は特定空家制度を早く、早めに、早急に考えていただきたいなと思っておりますので、ひとつ御理解をお願いしたいと思います。

次に、除雪についてですけども、迷惑があったというやつは、横断歩道の関係はよく分かりましたし、勤務に出るときに朝、早めに会社に出ないけんということで雪をかいとって、そしたらその後、除雪車がざっと入ってきて、その通路をどんと固めて、ぱっと逃げていったというようなことがあちこちから聞いて、要するに二重手間だったと。せっかくかいたのに、またそこへ雪積み上がったというようなことで、大分いろんな意見を聞いて、それから言ったんですけども、そういう家の前にある雪は多少除雪で来たやつはかくんですけども、自分がかいて通勤するところの道をきれいにしておいた後にばさっと積まれたというのは、非常にそれはせっかく朝、汗出してかいたのに、また積み上がったってというようなところから怒りがきたと思うんですけども、その辺も含めて、また除雪方法を考えていただきたいなと思いますが。

それで、ちょっと聞くんですけど、道路や川べり、歩道なんかポールが立ってますが、境界のね。このポールの辺の除雪の対応というのはどういうふうに対応されてるんでしょうか。分かったら教えてください。

○議長（山路 有君） 福井建設産業課長。

○建設産業課長（福井 真一君） 松田議員の御質問にお答えいたします。

ポールというのはデリニエーター、視線誘導標のことでしょうかね。

○議員（9番 松田 悦郎君） あの川べりに柵っていうか、いっぱいポールがあって、子供が落ちんようにしてある。

○建設産業課長（福井 真一君） こう1本立って、こういう反射板のついてる。

○議員（9番 松田 悦郎君） ああ、あの黄色いやなポール、赤じゃなくて。

○建設産業課長（福井 真一君） ああ、はいはい、はい。それはデリニエーターといいまして、視線誘導標という、日本語で言いますと。除雪の際にはライトつけてますので、それが反射して目印になるものでございます。ですので、それをそこの近くまで除雪できるという判断で除雪をする目印にもなっております。以上です。

○議長（山路 有君） 松田議員。

○議員（9番 松田 悦郎君） ということは、このポールとポールの間のところは雪が残っておるままだということですね。それは例えば普通だったらポールがなければ、ばさばさばさっと川に落としていくからかどうかわかりませんが、隣家の方もスコップで川に流すんですけども、そういうポールがあるとなかなかそれができないということで、ちょこちょこそういうところを聞いて、ポールは立てないよというところもあるんですけども、除雪車は、ということで、分かりましたけども、その辺は特に住民の方の気持ちを考えてもらって、除雪をいい具合にしてもらったらいいなと思うんですけど。

ということで、時間が来ましたので、考えてみましたけど。

○議長（山路 有君） いいですか、答弁。最後ですので、答弁はいいですか。

○議員（9番 松田 悦郎君） ああ、そうですか。ほんなら答弁ができましたら。

○議長（山路 有君） 福井課長。

○建設産業課長（福井 真一君） 議員おっしゃいますとおり、スムーズな除雪に心がけて、できるだけ通行に不便が生じないよう頑張りたいと思っております。以上です。

○議員（9番 松田 悦郎君） ありがとうございます。終わります。

○議長（山路 有君） 以上で松田議員の一般質問を終わります。

.....
○議長（山路 有君） 通告順2番、前田昇議員の一般質問を許します。

前田議員。

○議員（5番 前田 昇君） 5番、前田です。一般質問をさせていただきます。

今回は大きく3点を伺っておりますが、あらかじめこういうふうな通告書を村のほうに提出しまして、これに基づく答弁をいただいて、その後に質疑応答するというところでさせていただきます。

す。

大きな点、まず1点目は、男女共同参画社会の進め方ということでもあります。

先日、土曜日ですか、鳥取でフォーラムが、人口戦略フォーラムありまして、地元選出の石破総理が里帰りということで、この中のテーマの一つとしては、若者をはじめ女性が選ぶ、女性に選ばれる地方にしようというふうなことが述べられていたようであります。私は出席しておりません。多分村からは村長か誰か出席されていると思います。事例としてはこういったふうに、男女共同参画の社会っていうのはもう長年取り組んでいるわけですが、当初、何か女性の権利を守るといふことだといふことで、当然それもあるわけですが、今や地方創生においても女性が暮らしやすい地域をつくるということ、もう喫緊の課題になっているわけです。

そういった観点で質問させていただくんですが、本村における男女共同参画については、計画が既に5年計画が2回策定されておりまして、現在は第3次の計画を策定時期を、それを時間的には大きく遅れておりまして、はっきり申し上げて停滞していると言わざるを得ない。その要因を私なりに考えますと、この取組に対する役場全体の認識が不十分な点があるんじゃないかというふうに感じております。

現在、住民課が担当しております。住民課は住民票、戸籍をはじめ、ごみとか交通安全とか、もうまさに村民の生活の全般、どの村民にとっても関わりの深い仕事を担当しているわけですが、その中に男女共同参画ということが施策の担当課としてはありますが、その担当課のみならず、役場全体がこのテーマについて、まず職員が研修するなり、あるいは地域の皆さんと議論するなり、意見をいただくなり、そういった取組が必要なわけです。そういった点で、役場全体の認識が不十分でないのかということを感じております。

それから、村の総合計画、第7次総合計画の基本計画にも、その男女共同参画の位置づけは記載はされておりますが、正直言って大変不明確であります。男女が共に輝く村づくりは、先ほど言いました住民課に限らず、役場の全課に課せられた課題でありまして、各課の施策において現状を把握したり、問題点を出し合って具体的な取組を考えることが必要不可欠だと考えています。そういった観点で、小さく4点を質問しております。

既に実施されております村民アンケートの分析、公表、あるいは男女共同参画の審議会の開催、さらに村民への啓発とか、先ほど申し上げました計画の見直しについて、それぞれの取組の状況と、それを遅れているわけですが、実施するための何か課題があるのかということをお伺いしております。

それから、2点目ですね、地域防災計画において女性の参画をいかに位置づけられているか。

また、そのための対策はどのように取り組まれているか。また、災害時の避難所運営などにおいては女性の視点が必要だということが以前から叫ばれているわけですが、それをどのように生かす、あるいは工夫がされているかという点が2点目です。

3点目は、子育てですね、本村における子育てを男女が共に担うための現状や課題、今後の取組についてどのように捉えられているのかということです。

それで、4点目に、各課の施策においてこの課題を認識するために、まずは職員研修が必要だと感じておりますが、その状況とか今後の計画はどのように考えられているかということであり

ます。

大きな質問の2点目は、ヴィレステひえづの運営の見直しということで、これは私もずっと何度も何度も質問はしているんですけども、今年からヴィレステひえづの運営が基本的に教育委員会の所管となって、教育長以下、事務局もヴィレステに異動をされております。これによってヴィレステの運営とか、あるいはとりわけ生涯学習の推進に向けて何か変わった点はあるか、あるいは変えようとされている点はあるかということ伺いたしたいと思います。

それから、ヴィレステひえづの運営審議会における審議の状況、あるいはその今後の課題、見直すべき点と認識している点は何か。これは教育長に伺っておりますが、村全体の課題でもありますので、執行部のほうにも、村長以下のほうにも議論の中では質問させていただこうかなと思っております。

それから、大きな3つ目ですね、これも毎度聞いておりますが、海浜エリアの活性化の進め方について、海浜運動公園の活性化に向けて、民間の視点を取り入れながら取り組まれているということですが、その現状と課題について伺います。

1つ目は、海浜運動公園の施設整備に当たり、村民の声、また若い世代との意見交換も行うと村長は以前に明言されておりましたが、その辺の最近の取組状況と今後の進め方ですね。村民の参画とか、コンサルへの委託状況など、概略の進捗状況をお答えいただきたいと思います。

それから、整備に要する実施方針ですね、それから、公募資料、いわゆる民間業者とタッグを組むということでありましたが、そういった公募資料の作成状況はどのようになっているか。そして、いよいよ整備をすれば事業費が必要なわけですが、その辺の見積りとか財源確保とか、主にこれは来年度以降のことになるかと思っておりますけど、来年度からの事業計画について、概略をお示ししていただきたいと思いますというふうに思います。

以上、大きな問題としては3点質問させていただきます。よろしく申し上げます。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） それでは、前田議員からの一般質問にお答えをしてみたいと思います。

まず、男女共同参画社会、それからヴィンステヒえづの運営見直し、海浜エリアの活性化の進め方ということで、3点御質問いただいておりますので、まず、男女共同参画社会の進め方という御質問から答弁をしてみたいと思います。

先週、鳥取のほうで人口戦略フォーラムというのが開催をされまして、私も参加をしてお話をお伺いしてきたところですが、やはり地方創生がこれまで10年進められてきたわけですが、東京への人口の一極集中が止まっていないというのがこの振り返りとして一つはあって、そこにやっぱり若い人たちが都会に出てしまうというのが一つの大きな課題。特に若い女性であるとか、若い人たち、学生は一部出るはあるとしても、そういった方たちが東京なり都会に出るとというのが一つの課題としてある。

その原因としていろいろなことがあるかと思うんですけども、やっぱり一つはこの地方において女性の方々がいろいろ暮らしにくいとか、昔からのしがらみであったりとか、旧態依然とした習わしとか、この地域の仕組み等々があるのではないかなというようなことでして、これは本当に地域全体で取り組んでいく必要があるかというふうに思っていますし、それに対して、そういった状況も踏まえて、村といたしましても今検討しております、この計画のほうを策定をしっかりして行って、女性の方々、それから若い人たちがやはり住み続けたい、この地域で暮らし続けたいというような村づくりを進めていきたいというふうに考えて、そういった感想を持ったところでありました。

それでは、御質問でございますけれども、まず、男女共同参画計画の見直しの現状、課題等についての御質問でありますけれども、本村におきましては、平成21年の3月に男女共同参画計画を策定をし、その啓発のための講演会でありますとか、啓発活動に取り組んできているところであります。ここ最近では広報ひえづへの関連記事の掲載でありますとか、また、性暴力防止パネル展の開催など、そういった啓発活動を行っています。

また、計画の見直しも併せて遅れているという御指摘いただいております。この計画の見直しも行っているところでありまして、この見直しに当たりましては令和4年に村民の皆様アンケート調査を行ったところであります。現在このアンケートの回答データにつきまして、集約、分析を行っているということでもあります。

今後でありますけれども、12月にはこの男女共同参画の審議会というのを設置をしておりますので、この審議会を開催をいたしまして、アンケート結果の報告を行いますとともに、できれば

ワークショップ形式等で委員の皆様からも御意見をお聞きをしてみたいというふうに考えているところであり、この結果を踏まえ、1月にはアンケート結果の公表を行い、年内、年度内を目標に、この計画の改定ができるように進めてまいりたいというふうに考えているところでございます。

次に、地域防災計画において、女性の参画をいかに位置づけられているかと、災害時の避難所運営などへの女性の視点の生かし方等についての御質問でございます。

この防災対策ということでは、国、内閣府のほうから男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドラインというのが示されています。また、避難所運営マニュアルというのを本村におきましても策定をしています。これは西部の町村のほうでベースとなるものをつくりまして、それを日吉津村としてマニュアルとして使っているということでもあります。最初に申しました国のガイドラインのほうにおきましては、指定避難所の運営への女性の参画推進に努めること、それから、自主防災組織の育成、強化及び防災リーダーの育成等を図る際、女性の参画の推進に努めること等が定められているところでありまして、本村におきましてもこれらの事項について取組を進めているところであります。

避難所の環境整備等につきましては、女性の意見も参考にいただきながら整備を進めているところでありまして、避難所への派遣は最低1名以上の女性職員を配置をして運営管理をすることとしているところであります。また、各自治会で自主防災組織が活動をしていただいているわけであり、防災士についても女性防災士の養成を現在、重点的に進めているところであります。また、避難所運営マニュアルにおきましては、女性の視点による配慮事項として、例えば女性専用の物干場の確保ですとか、更衣室、授乳室の設置等が定められているところであります。こうしたことを踏まえ、今年度、授乳室、あるいは女性更衣室用のテントも購入をして配備をしたところであります。

今後も継続をして女性防災士の養成を進めるほか、防災士と自主防災組織との活動の連携強化、避難所の安心・安全な運営に向けて整備を進めていきたいというふうに考えています。また、避難所の運営につきましても、この避難生活が始まりますと、避難者の方々や地域でこの運営を行っていただくことが想定をされます。平時から自主防災組織への女性の参画についても理解を深めていただくように周知をしてみたいというふうに考えております。

次に、子育ての関係で、子育てを男女が共に担うための現状や課題、今後の取組についての御質問であります。

先ほど申し上げました男女共同参画に係る住民アンケートにおきまして、育児という項目を設

けています。育児について、女性の回答です。ほぼ女性がしている育児をほぼ女性がしていると回答された割合は、平成19年に36%であったものが令和4年には32%と若干減少をしています。一方で、男性が、ほぼ男性がしているという回答は1%程度で、これはこの程度で推移をしているということでもあります。また、育児は自分と配偶者で同程度行っているというふうに回答された女性は、直近では10%という状況で、男性では14%程度というような結果が出ているところでもあります。

鳥取県が令和元年度に行われたアンケートにおきましては、同様な質問でありますけれども、子育てに関し、女性がほぼ、ほぼ女性がしていると答えた女性の回答は34%、ほぼ男性がしているという回答をした男性は0.3%ということで、自分と配偶者で同程度行っているという回答は、女性では12%、男性では15%ということで、県で行ったアンケートと本村で行ったアンケート、同様の結果となっていることが見受けられます。

一方で、乳幼児健診など各種健診に両親で来られる方等も増えており、また、子育て支援センターには父親の来所が増えているというような状況も見受けられます。アンケート結果からは、子育てについては女性が主体的に担っているとの認識が一定うかがえるところでもありますし、その一方では男性の父親の育児参加への意識は高まっているように感じているところでもあります。こうした意識や行動を社会全体で支えていく必要があるというふうに認識をしておりますし、男性が育児に参加しやすい環境整備を進めていくということが必要だろうというふうに考えています。

子育てを含めた男女共同の実現に向けて、啓発活動、講演会等、講習会等の啓発活動を実施するとともに、現在、母子健康手帳交付等の場面で、特に支援が必要な御家庭につきましては子育て応援プランを作成をして、子育て家庭をサポートするなど、それぞれの子育てに寄り添った対応を行っていききたいというふうに考えております。

ヴィレステひえづの運営に関しましては、後ほど教育長のほうから答弁を申し上げたいと思います。

私のほうからは、海浜エリアの活性化の現状等について答弁を申し上げたいと思います。

海浜運動公園の改修、運営事業を適正かつ効果的に推進をしていくため、民間事業者と連携した場合の費用試算や事業の基本計画、実施方針等の作成までの一連の支援を実施するアドバイザー契約というのを委託契約を締結しています。公募型プロポーザルを実施をして、ローカルファースト研究所というところとこの契約を締結しているところでもあります。この委託内容は、来年度以降となります海浜運動公園を整備する事業者の公募に向けた各種計画や募集資料等の作成

支援に係る内容となっております。

この支援も受けながら、8月3日には住民説明会を開催をしたところでありますし、そうした御意見を踏まえ、基本計画案というのを策定をし、9月の13日から26日にかけて、パブリックコメントを実施をしたところであります。4名の方から6件の御意見をいただきました。また、10月には公募によるサウンディング型市場調査を実施したところであります。パブリックコメントでは、村民が気軽に利用できる公園、グラウンドゴルフが引き続き競技できる公園、子供たちが遊べる屋内外の遊び場の導入、自然環境や立地の地域特性を生かしたアウトドアアクティビティー体験の機能充実など、様々な御意見をいただき、これを反映させてこのたび基本計画を策定をしたところであります。

今後はこの基本計画に沿った形で、ハード整備ではキャンプ場のリニューアル、それから既存施設、既存機能、テニスコート、ゲートボール場になりますけれども、こちらの魅力化の再整備事業というのを来年度、令和7年度に実施をし、子育て交流施設につきましては、この整備事業は令和8年度に実施をしていきたいというふうに考えているところであります。イベント、ソフト事業の関係では、村民参画のワークショップ等を通じて、多くの村民の皆様が利用できるような利用ルールの見直しでありますとか、使っていただきます村民の皆様が主体となって運営されるイベントの検討等々ですね、その利用につながっていくようなことを考えていきたいというふうに考えているところであります。

今後も実施方針の策定、現在策定中ということでもありますけれども、公募資料の作成、補助金申請等々が出てまいります。民間コンサルのほうの支援も受けながら、来年度以降の整備開始に向けて事業を進めてまいりたいというふうに考えております。

この実施方針、公募資料の作成状況につきまして、また、事業費、財源確保等の状況でございますけれども、現在実施をしております海浜運動公園の魅力化事業に係るコンサルタントの支援等を受けるための費用等につきましては、内閣府の国のデジタル田園都市国家構想交付金というのを活用して、その費用の2分の1は国費を活用して実施をしているところであります。現在は先ほど申しました実施方針、それから公募資料の作成に向け、協議、検討を進めているところであります。

繰り返しになりますが、来年度の事業計画はキャンプ場と、それからテニスコート、ゲートボール場の再整備事業を開始をしていきたいというふうに考えています。事業者へのサウンディングを行う中で、設計期間をもう少し確保してほしいとの意見がありました。また、非常に高い頻度で御利用いただいておりますグラウンドゴルフのコートとなる場所をまずは整備をすることで、

プレーができない期間をなるべくなくしていきたいというような思いがございますので、まずはこの既存のテニスコート、ゲートボール場のほうに、こちらを芝生化を図って、グラウンドゴルフがプレーいただけるような環境を整備をしていきたいというふうに考えています。

そして、事業年度を分けて、設計期間も確保した上で、令和8年度に現在の芝生広場のほうになりますけれども、子育て交流施設等の整備をしていきたいというふうに考えているところであります。基本計画を基に、今後実施方針、モデルプラン等を作成し、予算規模等についても今後出してまいりたいというふうに考えているところであります。整備費の財源につきましては、国の交付金獲得を視野に考えておりまして、年末から年明けにかかっがこの申請のスケジュールとなってくるかと考えておりますけれども、この申請に向けて、合わせて作業を行ってまいりたいというふうに考えています。

では、以上で私からの答弁とさせていただきます。ヴィレステひえづの関係につきましては、教育長のほうから答弁を申し上げます。

○議長（山路 有君） 井田教育長。

○教育長（井田 博之君） それでは、前田議員の一般質問にお答えしてまいりたいと思います。教育委員会がヴィレステに異動しまして、何が変わったか、今後の課題見直しはどうするかという御質問でございます。

まず、今年の6月議会におきまして、日吉津村複合施設設置及び管理に関する条例、ヴィレステの設置管理の条例の一部を改正する条例が可決されました。これにより、次の3点が変更になっております。条例上では、日吉津村教育委員会がヴィレステに異動する。それから、コミュニティセンター、日吉津村図書館はこれまで村長が管理し、業務を総務課が担当するということになっておりましたが、これを教育委員会事務局が所管し、担当することとなりました。ヴィレステひえづ運営審議会の会議運営も総務課が担当しておりましたが、教育委員会事務局が担当することとなったところでございます。

なお、この運営審議会に関しましては、教育委員会事務局が異動する前に6月に総務課主催で開催されております。委員の皆さんからも新たな体制に期待する声が聞かれたというふうに聞き及んでおります。教育委員会主催の運営審議会は7年、来年の1月及び2月のあたりに開催してまいりたいと考えております。

今申し上げましたように、教育委員会事務局が役場の課の配置変更と合わせまして、7月1日にヴィレステひえづに異動いたしました。さらには10月1日付で新たに辞令が交付されまして、これまでヴィレステ勤務となっていたコミュニティセンターと図書館職員全員を教育委員会事務

局職員としました。そして、教育長が施設長ということにしたところでございます。また、教育委員会事務局内に、これはヴィレステ全体にですけども、教育総務室と生涯学習室の2室を設けて、それぞれ室長を配置して、業務全般の充実を図るための組織づくりを現在進めているところでございます。

教育委員会事務局がヴィレステへ異動する際の目的の一つでありました生涯学習の推進についてでございますが、これは室長を中心とした協力体制であったり、2つの室が連携してイベント等を運営したりすることによりまして、利用者のニーズへの対応幅が広がって、支援が充実してきているというふうに考えております。例えば昨今話題にさせていただいております中学生サークルの支援に関してでございますが、これまで教育委員会事務局職員も関わっていたんですけども、役場のほうにおった関係で、相談や連携がスムーズでない部分もありました。ヴィレステに異動してきましたから、常にヴィレステの職員と教育委員会事務局の職員が一緒になって中学生サークルのこの相談をし、実際に中学生サークルの子供たちと直接話すことが非常にスムーズになったということでございます。

教育委員会事務局職員がヴィレステへ契約や手続等を協力して行うことによりまして、その業務が大変スムーズに行えるようになってきております。先ほどのことと重なりますが、これまで社会教育担当といえますと、教育委員会として役場におりましたが、教育委員会事務局がヴィレステに異動したことでイベントの運営をどうしようかというような相談が非常にタイムリーに行えるようになったというようなことも変わったところの一つでございます。

今後の課題、見直しすべき点はどうかという御質問がございましたが、何よりもより一層親しまれて、気軽に利用でき、村民の皆さんが集って生涯学習やいろんな主体的な活動ができるようになることが一番の目的だと私は考えておりまして、ようこそ、いらっしやませという接遇姿勢の強化に努めてまいりたいというふうに思います。ですので、ヴィレステに来ますと、正面に窓口がございます。窓口で村民の皆さん等々いらっしやませと、一番奥にはおりますので、一番奥からいらっしやませという、こんにちはという声をかけるように努めているところでございます。

より使いやすい施設となるよう、設備に関しても充実を図れるところから図ってまいりたいと思いますし、具体的にいつ、議会でも御指摘をいただいたことがございましたが、ワンストップサービスとなりますように、施設使用料を今までは出納室で支払っていただいておりますが、これをヴィレステの窓口で支払うこともできるように見直し、検討を図ってまいりたいと。役場の出納の手続を変更する必要があるものもありますので、もうちょっと時間はかかるかもしれま

せんが、ぜひそうなるように検討してまいりたいというふうに考えております。

先ほども申しあげました、村民の皆さんが集って、主体的に活動できる、楽しく、みんなでわいわいにぎやかに活動できる、そのことによって村が活性化するということを目指して運営してまいりたいというふうに考えております。以上でございます。

○村長（中田 達彦君） 議長、答弁漏れがありました。

○議長（山路 有君） あっ、そうですか。

中田村長、答弁漏れがあったそうです。

○村長（中田 達彦君） 失礼いたします。答弁漏れがありましたので、追加で答弁をさせていただきたいと思っております。

男女共同参画社会の進め方の答弁の中で、まずはこの課題を認識するために、まずは職員研修が必要ではないか、その現状、今後の計画等についての御質問でございます。

この男女共同参画をより進めていくためには、具体的な課題の認識と取組が必要であるものと認識をしております。これは職員に対してもしっかりとやはり認識を深めていくことが必要だというふうに認識をしております。職員に関しましては、この6年の4月1日に女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づいた日吉津村特定事業主行動計画というものを改定をしたところであります。働きやすい職場づくりを進めていくというようなことが中心となった計画であります。

今後、予定をしております男女共同参画基本計画の改定に向けて、本村における課題や現状の把握と広報や研修はもちろんのこと、他の自治体での取組等も参考にし、本村にマッチしたものができていくように、そうした先進的な取組等も施策等も学ぶような研修の機会の場合も今後考えてまいりたいというふうに考えております。

以上、追加の答弁とさせていただきます。

○村長（中田 達彦君） それでは、再質問を許します。

前田議員。

○議員（5番 前田 昇君） 答弁いただきましたが、いっぱい聞きたいことがあるので、少し要点を絞ってお伺いしたいと思います。

まず、最初の男女共同参画についてですが、この間、私も言ったように、役場全体の取組になっていないのではないかということを感じております。改めて、担当課の住民課には奮起いただきたいんですけども、例えば一つのバロメーターとして、うちの役場で男性職員が育児休業というのは取得してますかね。それ、総務課長ですか、ちょっとお答えいただきたい。

○議長（山路 有君） 小原総務課長。

○総務課長（小原 義人君） 前田議員の御質問にお答えします。

男性の取得は、今のところありません。以上です。

○議長（山路 有君） 前田議員。

○議員（5番 前田 昇君） それはこういったような経過ですかね、現状というか。

○議長（山路 有君） 小原総務課長。

○総務課長（小原 義人君） 前田議員の御質問にお答えします。

制度の周知はしておりますけれども、取りあえず職員からの希望がないということでございます。以上です。

○議長（山路 有君） 前田議員。

○議員（5番 前田 昇君） 私も現職のとき取ったことないので、あまり大きなことも言えませんが、要するに言いたいのは、そういった各課が単に取っていいんだよ、取りなさいよって言うだけでなく、日吉津村もイクボス宣言って随分前にやってますよね。そういった点をどのよう推進するかっていうことと言うと、やっぱりいわゆる役場全体でそういう期間を設けるということについて、もう一歩進んでいかないと、結局村の計画の実現がおぼつかないんじゃないかなと思うんで、そういうふうに向ったわけですね。

それで、あと、そうですね、この間もちょこちょこ聞いてますけど、村の各審議会とか委員会に少なくとも女性を3割で、計画によりますと、随分前の計画で4割を目指すということになってるわけです。その辺の実情はどうなってるかっていうのは、どこで把握されてるんですかね。

○議長（山路 有君） 矢野住民課長。

○住民課長（矢野 孝志君） 前田議員の質問にお答えいたします。

審議会の状況ですけども、今ちょっと手持ち資料がございませんが、まとめたものは担当で課で保管しております、いるところでございます。以上です。

○議員（5番 前田 昇君） ちょっとよく分からない。まとめたものはない、ある。

○議長（山路 有君） 矢野課長。

○住民課長（矢野 孝志君） 前田議員の質問にお答えいたします。

まとめたものはございます。以上です。

○議長（山路 有君） 前田議員。

○議員（5番 前田 昇君） それから、言っておきたいのは、先ほどようやく審議会を12月に開催するということですが、そもそもは審議会が1つ、それから、計画の策定委員会も別途あ

るんですよ。だから、2つ委員会があるんですよ。その審議会の方が10名以内っていうことになってますが、そのうちの例えば女性の方は何人ですか。

○議長（山路 有君） 矢野住民課長。

○住民課長（矢野 孝志君） 前田議員の質問にお答えいたします。

御質問の審議会の運営委員は10名いらっしゃって、そのうち4名が女性です。以上です。

○議長（山路 有君） 前田議員。

○議員（5番 前田 昇君） 審議会がこの間、開かれてないってということで、アンケートが令和4年度に行われてますが、その要するにアンケートのどういうアンケートをするか、あるいはそのアンケートの令和4年度の結果を村民の方に御意見をいただくという場面は、結局はなかったわけですね。

○議長（山路 有君） 矢野住民課長。

○住民課長（矢野 孝志君） 前田議員の質問にお答えいたします。

アンケートの内容につきましては、審議会で協議いたしまして、それをまとめたものを集計等、グラフ化等しておりますけども、このたびの審議会でその結果報告をさせていただいて、その後、住民さんとの意見交換会等計画しているところでございます。以上です。

○議長（山路 有君） 前田議員。

○議員（5番 前田 昇君） 大体流れはちょっと分かったんですけども、それで結局、先ほど村長の答弁では、早速取り組んで、年度内には計画をつくるということで、矛盾するかもしれませんが、急いでやるべきですけども、かといって、言わば役場がつくったものをこういうふうにやりますので承認してくださいって感じで、審議会や、その策定委員会で了解を取るっていうだけでは非常に今後が不十分だと思います。急ぎつつもしっかり議論していただく。

それと、ちょっと前、口幅ったい言い方かもしれませんが、村民の方の審議会の委員さんも日常的にそれに関わる専門家ではないわけですから、本来だと適宜情報提供して、村として、あるいは例えば鳥取県はこうなってますとか、今日的課題はこうですとかっていうことを情報提供して、それを皆さんがそれなりに自分なりに勉強といいますかね、勉強しつつ、計画に携わっていただかないと、男女共同参画に関わる状況も、例えば住民課の窓口の対応だって全然変わってるわけですね、ここ五、六年でもね。そういったところの情報提供する必要があると思うんですけど、その辺の配慮はちゃんとやっていただけますでしょうかね。

○議長（山路 有君） 矢野住民課長。

○住民課長（矢野 孝志君） 前田議員の質問にお答えいたします。

年度内に計画がということで、それにもっと住民さんの意見を加えていかないといけないんじゃないかということだと思っておりますが、確かにそのとおりでございます、審議会後に住民さんへの報告会等をして、その後もパブリックコメントですとか、いろんな場でお知らせはしたいと考えてるところでございます。その中で、そういった皆さんの意見が反映されるような場を設けていって、進めていこうと考えておるところでございます。以上です。

○議長（山路 有君） 前田議員。

○議員（5番 前田 昇君） いろいろ伺いたいことはあるんですが、一つ提案をしたいことがあります、それはなかなかこういう計画が、現在の計画が平成29年に完了してまして、平成29年から今日まで、言わば計画の空白があるわけですね。そういった中、それから現在の担当課、住民課のいろいろ窓口業務とかの関係を考えますと、あえて言うのは、本来はあるべきじゃないかもしれませんが、よく熟知した人をですね、例えば3か月ぐらいでもアドバイザーとして迎えて、やっぱり日吉津村の現状を分析して提案をいただくというかね。従来から職員研修や総合計画についてはコンサルを年間ずっと継続して委託してありますが、ここまで来るとやっぱりそういう熟知した人を迎えて、アドバイザー、あるいはそういったコンサルがあるかどうか知りませんが、そういった方を迎えて、多少短期でも十分役割が果たせるような、あるいは役場の中に日常的に情報提供できるような、そういうことを、私は、逆に言うとこれはもう村長の責任としてそういった対応を考えるべきだと思いますけども、にわかには答えれにくいかもしれません。村長、その辺の考え方はどのように思われてますか。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。御提案ありがとうございます。今進めようとしております審議会とかそういった中で、今お願いをしています行政系アドバイザーの方ですね、こちらの方にも協力をいただいているところでして、ちょっと意見を聞くための最初ワークショップと申し上げましたけれども、そういった意見を皆さんから聞くようなちょっと場所、場づくりというのをお手伝いしていただきたいと思っておりますし、また、様々な他県の自治体等の状況も知っておられる方でございますので、その辺りの意見というか、情報もいただきながらですね、これ進めていきたいというふうに考えているところであります。以上です。

○議長（山路 有君） 前田議員。

○議員（5番 前田 昇君） 今、村長、そのように答弁があったんですけども、先ほど私もちょっと触れましたけど、ここら辺の今の現在の総合計画ですね。総合計画のところに男女共同参画という項目はないんです。人権尊重社会の実現というものの中に今後の方向性が一文だけあるん

ですけども、男女共同参画に関する情報の収集、提供を積極的に行い、村民、事業所などへ働きかけ、意識の啓発を行いますということで、何が言いたいかというね、総合計画の中でもあまりに扱いが薄い。そういった点でいうと今村長、その方がどうっていうんじゃないんですけど、従来のアドバイザーの方にリードといっても、私は正直言って失礼ながらこの総合計画の中の点を見ると、その方が決めたわけじゃないんですけども、どうかなと。もう少し現場でいろいろ苦労してきた、多分県内でいろいろ取り組まれてる方やいらっしゃりますので、そういった方を本当、短期でも迎えて、日吉津村を客観的にアドバイスいただけるような、住民課長が常にその辺のアドバイスも受けながらいくようなことは、これは新年度になるのかもしれませんが、やっぱりぜひその方向は検討いただくべきだと。それこそが役場としてちゃんとやりますという現時点での対応策の一つじゃないかなというふうに思いますので、その辺は御検討いただきたいということにとどめておきたいと思います。

時間がありませんので、とにかくこの辺の取組、全課が防災にしましても、防災計画の中には本当に一文なんですよね。避難所のことについて、女性の参画なんて一言も出てないです。全体の計画策定の目標というところ、目的というところに計画の基本方針の中に女性及び高齢者、障がい者、乳幼児、その他特に配慮を要する者というその対策を推進するというので、女性の意見を聞きながら計画を練るとか、あるいは避難所運営に女性の視点が必要だというようなことは一言も書いてないので、やっぱりその辺はしっかり見直す必要があるんじゃないかと。以前には災害時の女性の問題っていうことを講演会を村がやったこともありますんで、そういった点での取組は各地でいっぱい進んでるということを添えておきたいと思います。

それで、次に、ヴィレステのお話を伺いたいと思います。ヴィレステについて教育委員会が所管となって、今の条例等のお話もありましたが、私が聞きたいのは、その後に具体的に言わば利用者目線としてどのように変わったかということでもありますね。まず一つは、運営審議会がこれだけ日吉津村として村としては教育委員会がヴィレステに移るという大きな対応があった後に、予算が例えば年2回ぐらいだということもあるんでしょうけど、運営審議会がまだ開かれてないっていうのは、やっぱりこれは不十分だと言わざるを得ないと思います。教育委員会が移ったら教育委員会として審議会を早くやって、そもそもこの間、皆さんが感じておられる点をヒアリングなり意見をいただいて対応されるべきだというふうに思います。

あえて言いますと、ヴィレステひえづに教育委員会が移ったことのちょっと失礼な言い方、マイナスもあると思うんですよね。ヴィレステ運営に対する意見投書箱みたいながたしかカウンターの横にあったと思いますが、例えばたくさん職員さんが急におられると、あそこの窓口の前に

意見投書箱があっても、顔見知りの関係だと出しにくいと思いますよ、例えばですけどね。もともとヴィレステの設計のときに、窓口を手前にしたほうがいいのか奥にしたほうがいいのかっていったときに、普通だと手前だとスタッフから来た人に声がかかりやすいって話もあったんですけど、でも、来る人にとっては、スタッフがすぐそばに目に見えるってというのは、むしろ入りづらいと。むしろ必要があれば奥に声かけるほうがいいんだって話をね、当時、設計の段階で、私、意見言ったときに聞かれた。それはともかくにして、要は従来より教育委員会のスタッフがたくさん来られたことによって見える部分があって、それを皆さんは期待すると思うんですけど、場面によってはちょっと緊張するとか相談がしにくいとかってということもあるかもしれないってことは念頭に、先ほど教育長言われたように、より声がかかりやすい雰囲気何か工夫していただきたいということ。

それから、健康相談室ですね、前から言っております健康相談室をもっと一般の方に開放したらどうかと。これからどんどん部屋を利用したりするのに、あの1階のいい場所で村民の方が学習しておられる姿ってというのは非常にいい効果を生むんじゃないかっていうことで、ずっとやってきたわけですね。それで、いつだか行きましたらね、健康相談室も何か子供さんの学習に利用するような何かそういう表示をちらっと見たので、あっ、ちょっと変わったのかなと思ったんですけど、その後、健康相談室、それからいわゆるキッズルームの活用について、教育委員会としては、現時点ではどのように見とられますでしょうか。

○議長（山路 有君） 井田教育長。

○教育長（井田 博之君） 前田議員の御質問にお答えいたします。

運営審議会を開催すべき、早めに開催すべき、意見を聞くべき、それからまさにそのとおりであらうかと思えます。声を聞いてどうするかを考える、それは基本的な考え方だと思いますので、それに努めてまいりたいと思えますが、今年度に関しましては、今までの状況をしっかり分析といたしますか、今までやってきたことをもう一回きちんと反すうして、来年度に向けて考えていきたいというふうに思います。その際に、審議会なり意見箱の話もございました。いろんな声を聞くことを念頭に進めてまいりたいというふうに考えます。

なお、意見箱の位置に関しましては、今は窓口のカウンターではなくて、左側の夜警さんの隣のほうの掲示板の下のほうに置いておりますので、そこで使いやすいようにしていきたいというふうに考えております。

健診室の利用に関しましては、まずはヴィレステ内の教育委員会事務局職員の打合せ、あるいはヴィレステにお越しただいて相談が必要な外部の方との打合せとかにまずは使用するよう

しております。徐々にどんなふうに使えるかということを検討してまいりたいというふうを考えております。

なお、キッズルームなり相談しやすいようにということに関しまして、次長のほうから答弁いたします。

○議長（山路 有君） 横田教育次長。

○教育次長（横田 威開君） 前田議員の御質問にお答えします。

先ほど教育長、申しましたとおり、健康相談室等は、まだ一般的な自由な利用開放っていうところまではいってないんですが、キッズルームのほうについては、これは教育委員会事務局全体は7月1日から移動したんですが、それから以前、春から私もできるだけヴィレステにはいるようにしています。その中で、改めて感じてはいるんですが、コロナ5類移行後、ですから昨年令和5年の5月以降、キッズルームの利用件数っていうのは明らかな上昇傾向にあります。現在も毎日のように子供連れの方が利用している状況があって、活用いただいているというふうな状況があるので、今そこを別の利用にっていうふうなことは今の時点では検討しておりません。以上です。

○議長（山路 有君） 前田議員。

○議員（5番 前田 昇君） それから、図書館のことを伺いたいです。図書館のスタッフは非常に交代勤務で頑張っているというふうには思っているんですが、ただ、いわゆる現在の町の図書館の役割っていうのはもっと広がってしまっていて、それ一々ここで議論する必要はないと思いますけども、いわゆる窓口で本を管理し提供するという以上に、決算の委員会でも指摘しましたけども、村全体の読書環境を整える、あるいは蔵書にしましても、いわゆる学校図書館でいうところの調べ学習ですね、それと同じような村民の学習のためのレファレンスとか、そういった専門性がすごく問われてて、とても本当に経験のない者には対応できない役割がいっぱいあるわけですね。その辺の現在のうちの図書館の状況を見て、教育長のほうはどのように捉えられているかっていうことと、ちなみに西部の市町村で非正規というか、いわゆる会計年度任用職員さんだけで現場を守っている町っていうのはほかにどこがあるかっていうことをお答えいただきたいと思います。

○議長（山路 有君） 井田教育長。

○教育長（井田 博之君） 前田議員の御質問にお答えいたします。

今御指摘のありました住民の学習に資する図書館、蔵書にしましてもレファレンスにしましても、住民が学習したい興味があること、ここに行けばというお話でした。これはまさにそのとお

り必要なことだなというふうには受け止めておまして、現在の職員がそれが全くできないということでもないとは思いますが、御指摘のあった住民の学習に資する図書館になっていこうという目標を持って業務に携われるように一緒に考えてまいりたいというふうに思います。

職員構成の他の市町との違いについては恐らく次長に聞いても現時点把握してないというふうに思いますので、またぜひ調べておきたいというふうに思います。

○議長（山路 有君） 前田議員。

○議員（5番 前田 昇君） すみません、私の組立てがいつもまずくて時間がなくて、答弁を切るようなことになってますが、図書館の正規職員はほとんどの町であります。あって長年その人が取り組んでますので、その辺をしっかりと調査いただいたらと思います。

それで、本当1点だけ、すみません、公園の問題で、村長の答弁にありましたが、結局、サウンディング調査は来年も引き続きやるということか、そのことと、それから先日頂いたこの再整備の日程で、公募が今年度から2月から公募っていうのは、要は令和7年度に整備するキャンプ場、テニスコートなんかの整備があって、その整備の前にこれはいわゆる民間業者を公募して5月から委託を契約をした上で事業を一緒に進めるという、そういう読み方でいいんでしょうか。ここの2月から公募っていうのはどういった公募なのかって確認したいんです。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。まず、サウンディングの実施ですけれども、これは必要なときに適宜意見を聞いてみたいなというふうな考えでいるところでありまして。いつやるとかっていうのは決まっているものではなくて、そのように考えています。

あと、契約の関係ですけれども、これはまず2月からという部分については、7年度の事業範囲に関する契約になろうかというふうに思っています。

○議員（5番 前田 昇君） 整備のための公募。

○村長（中田 達彦君） 整備のための、はい。

○議員（5番 前田 昇君） 管理のための公募ではなくて。

○村長（中田 達彦君） そうです、ただ、どこまでの部分を委託するかということでありまして、今DBとかDBOとかあって、設計、それから施工管理、どこまでセットにしていくかということだと思っておりますので、それを少しもう少し検討を深めて、その管理も含めてやっていくのかどうかというところはまたお示しをしていきたいというふうに思っています。以上です。

○議長（山路 有君） どちらにしても、前田議員、経過については全員協議会等でまた逐次したいと思っております。

○議員（5番 前田 昇君） また聞かせていただきます。

○議長（山路 有君） 以上で、前田議員の一般質問を終わります。

○議長（山路 有君） ここで、暫時休憩に入ります。再開は11時から再開しますので、当議場にお集まりください。

それでは、休憩に入ります。

午前10時50分休憩

午前11時00分再開

○議長（山路 有君） 再開いたします。

通告順3番、斉田光門議員の一般質問を許します。

斉田議員。

○議員（1番 斉田 光門君） 1番、斉田です。一般質問をさせていただきます。

大きく農業振興はどうなっているのか、それと村長の4年間の成果と今後は、今2期目に入ってますけど、そういった内容でさせていただきます。

まず、農業振興はどうなっているのですが、米は日吉津村の主要作物であります。10月末時点で、日吉津村の人口3,604人、1,293世帯が現在暮らしています。そのうち、田んぼを営んでるのは約279世帯、300弱ですね、個人の水田作付は100世帯あります。村全体の水田作付は約63.3ヘクタールあるということになっています。村の農地は狭くて農道も水路も大変古く、破損箇所が多く見られます。田んぼの移動も大変離れているもので、それも一つの作業です。稲作はもうからない、担い手が少ないなど、問題が多く指摘されております。年々高齢化はさらに進み、各地区の実行組合は、ほとんど機能しておりません。米価の低下する中で、田んぼの管理が難しく、今後の見通しが立たない。最も大変なのは草刈りです。1年間に4回か5回、草刈りをしなければなりません。されど、最近、田んぼで請負業者の姿は見えますけど、年々、本当年々草刈り作業する人も見なくなってきております。温暖化で猛暑、夏場は朝9時までですね、それと夕方5時、5時でも暑いですね。それだけで作業しなければなりません。本当に深刻な状況にあると考えます。

そういう中、8つの項目を上げております。まず、1番目としまして、個人の稲作農家は、事実上、全体の何%あるのか。

2番目、担い手確保、育成の現状をお願いいたします。

3番目としまして、がんばる農家プラン、それとがんばる地域プラン事業、行っておられますけど、成果のほうを聞かせてください。利用状況ですね。

それと、4番目でございますが、農業関係者の情報交換、そして相談のできる環境をつくっていただきたい。

⑤として、農業機械は本当に高いです。半端じゃないです。何百万します。助成制度で稲作作付継続可能にしていきたい。正直言いまして、近所の方もトラクター壊れたけん、もうやめえわ、その一言でございます。

6番目として、農地、農道、水路補修など、助成制度をお願いいたしたいと思います。

それと、7番目としまして、行政として個人農家、継続をしたいと思いますが、可能な環境整備をと考えます。

8番目でございます。農地の基盤整備にて地域計画を早急に取り組む、例えば圃場整備、土地改良といった大きな項目がございますが、そこまでできるのかということも問題があります。なるべく近いそれぞれ例えば6反あっても周りにあれば、本当に田植、稲刈りやりやすいです。移動するだけでも大変です。そういったことをちょっと考えていただけたらと思います。

それと、続きまして、4年間の成果と今後はでございますけど、令和元年4月、石村長さんから村政を受け継ぎされて、昨年2期目となっております。コロナ禍の中で、ミライトひえづも完成しました。本格的な子育て事業に邁進し、岸田総理も訪問されましたし、様々な問題もありますが、今後の日吉津村に対し、村長の展望をお聞かせください。

まず、第1点としまして、中田村長2期目の成果は。それと、第2点目としまして、今いろいろな課題、問題となっている事業を今後どうする予定なのか。それと、3番目としまして、ほかにも大きな事業を抱えております。議会と執行部との連携はどう対応していくのかということでございますが、2番目と3番目に関しましては、いろんな項目はございますが、まず2点、富吉北地区計画の交通安全対策、それと国道431号、慢性的な渋滞をしております。その2点について村長の答弁をお願いいたします。以上でございます。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） それでは、斉田議員からの御質問にお答えをしまいたいと思います。

1点目が農業振興に関する御質問、2点目が村政4年間の成果と今後についての御質問でございます。

まず、1点目の農業振興に関して幾つか御質問をいただきました。

その1つ目でありますけれども、個人の水稻作付農家は事実上何%あるかということでありま

す。日吉津村地域農業再生協議会で管理している水田台帳に登録されている農家279戸のうち、今年度飼料米を含む水稻を作付された個人農家は80戸で、農家数に占める割合は28.7%ということになっております。作付面積ベースで見ますと、この地域協議会管内の水稻作付面積72万1,270平米のうち、個人農家の作付面積は38万9,130平米で、作付面積全体に占める割合は53.9%ということになっております。

次に、担い手確保育成の状況でありますけれども、本村における認定農業者、従来、認定農業者や認定新規就農者等の効率的かつ安定的な経営を行う方が担い手として位置づけられ、その確保、育成に力が注がれてきましたが、農業経営基盤強化促進法の一部改正に伴い、それらの者以外にも中小家族経営、兼業農家等も農業を担う者として位置づけられ、その確保、育成にも努めることとされています。本村における認定農業者は、現在、広域認定も含め6経営体で、うち3経営体が法人組織であります。また、がんばる地域プラン事業の一環で、認定農業者を含めた24経営体を村独自に認定の耕作者として位置づけをしているところであります。また、親元就農促進支援交付金事業というのがありまして、これによる研修を修了し、今後、経営移譲の上、農業経営改善計画の認定を受けられる予定の方が1名おられるという現状であります。引き続き鳥取県や鳥取県農業農村担い手育成機構などの関係機関と連携し、村外の方も含め、農業を担う者の育成、確保に努めていく考えであります。

次に、がんばる農家プラン、がんばる地域プラン事業の成果と利用状況についての御質問であります。がんばる農家プラン事業、現行では担い手強化支援事業となっておりますが、こちらにつきましては、意欲ある農業者等が作成し、県の認定を受けたプランに沿って行われる農業機械や施設の整備に対し支援を行うもので、最近ではコンバインや農業用倉庫、菌床発生用ビニールハウス、高圧受電設備の整備に対し支援を行っています。がんばる地域プラン事業につきましては、地域の助け合いの力、つながりを生かし、農地、農業を次世代につなぐ仕組みをつくるということを基本方針として、ソフト事業ではアグリマイスター及び認定耕作者の認定、農作業お助け隊の設置と運用、収量向上支援事業、環境農業維持支払交付金事業等を行うとともに、ハード関係では、ふんばる農家プラン事業というのを実施をし、これまで2件の機械整備、自走式草刈り機やトラクターのアタッチメントに対し支援を行っているというのが現状でございます。このほかにも農業生産拡大に向けたスマート農業推進事業や園芸産地活力増進事業により、大豆用の自動操舵システム付汎用コンバイン、管理機用のアタッチメントの導入に対し支援を行ってきております。これらの事業によって、担い手等の規模拡大であるとか、あるいは生産性の向上などが図られたというふうに考えております。

次に、農業関係者の情報交換、相談ができる環境をとということではありますが、農業関係者の情報交換につきましては、御近所同士はもちろんのこと、農協の生産部会や地域資源保全会などの組織において行われているものと把握をしております。また、農業委員会や地域農業再生協議会のほか、人・農地チーム会議、地域計画の策定に係る協議の場においても、農業関係者の皆様による情報交換、意見交換が行われています。農地の貸し借りに関することのほか、農業、農地の全般に関わる困り事等の相談につきましては、建設産業課によろず相談窓口を設置しておりますので、お気軽に御相談をいただければというふうに考えています。

次に、農業機械に対する助成制度の御質問でございます。農業機械の導入に対する村の助成制度につきましては、主に県の補助事業を活用したがんばる農家プラン事業、農業生産の拡大に向けたスマート農業推進事業、がんばる地域プラン事業の中のふんばる農家プラン事業、園芸産地活力増進事業などがあります。先ほど申し上げたとおりでございます。これらの事業は、認定農業者等が行う規模拡大や生産性の向上等に資するものとして交付要綱に定める目的などに合致するものに対して補助を行うものでございます。議員御指摘のとおり、農業機械は非常に高価でございます。これを個別の農家がそれぞれ一式を保有して維持管理をしていくということは、昨今の農業を取り巻く環境を踏まえると、共同化でありますとか効率化を図っていくことも検討をしていく必要があるのではないかとこのように考えているところであります。既存の補助制度を有効活用していただけるように戦略を検討していただいたり、一部作業委託等も選択肢に含めて考えていただくなど、継続可能になるように検討をいただければというふうに思っています。そうした補助金の活用等については、先ほど申し上げました相談窓口もありますので、ぜひとも御相談をいただければというふうに考えています。

次に、農地、農道、水路保守等の助成制度についての御質問であります。農道、水路の補修等につきましては、日吉津村では農地所有者、耕作者が実施する管理作業と農業施設の軽微な補修に活用できる多面的機能支払制度を実施しております。この制度は、農地の有する国土の自然環境の保全、良好な環境形成等の多面的な機能を支えるための地域住民の共同活動を支援するための交付金制度であります。日吉津村では、この制度を活用して、日吉津村地域資源保全会が活動されており、この保全活動の対象エリアとして計画書を提出いただいているエリアにおいて、のり面の草刈りや農道の路面維持、農道、水路の部分補修などを実施をしていただいております。令和6年度は村内農地のうち約79ヘクタールがこのエリアとなっております。農地の管理状況等に応じてこの制度の活用を御検討いただければというふうに考えております。あわせて、しっかり守る農林基盤交付金というのを県の交付金を活用して農道、水路などの小規模な整備、補修等

も村で実施をしております。こちらの事業は、農産物等を供給している優良農地を維持保全し、農業を継続することを目的とした制度で、県2分の1以内、村2分の1以内、実施主体が県村の負担額を除いた額を負担する形で事業実施をしています。村では、農業者から相談を受けた農道、水路等を中心に、次年度の事業実施予定調書を作成し、農業者だけでは対応できない整備、補修や災害復旧等の支援を行っていますので、この事業も活用し、農業者が継続して農業を続けていけるように支援を行ってまいりたいというふうに考えています。

次に、行政として個人農家継続可能な環境整備をという御質問でございますけれども、地域農業を将来にわたって持続可能なものとしていくためには、村内外を問わず、農業を担う方々を幅広く確保するとともに、地域ぐるみで支え合う仕組みづくりが重要であるというふうに考えています。本村の水田作につきましては、需要に即した生産を行っていくために、ブロックローテーションによる主食用米と転作作物の計画的な作付が行われているところでありますが、農業者の経営安定に資するよう、大豆や飼料用米、白ネギ、ブロッコリーなど、転作作物の作付について国から交付金が支払われるほか、指定ブロックにおける転作作物の作付については、村単独で団地加算金や飼料用米作付助成金を交付をしているところであります。

本村においては、水稻作を主とした小規模兼業農家がほとんどを占め、その多くが従事者の高齢化や後継者不足等により、将来の農業経営に不安を抱えておられる中で、本村の宝である農地とそこで営まれる農業を次世代に引き継いでいくための基本指針となる農業将来ビジョンを令和4年3月に策定をし、令和4年度以降、がんばる地域プランによりビジョンの実現に向けた様々な事業に取り組んでいるところであります。また、今後、高齢化や人口減少の本格化により、地域の農地が適切に利用されなくなることが懸念される中で、地域における話合いに基づき、地域農業の将来の在り方や地域の農地を誰がどのように利用していくかを明確化した地域計画を今年度中に策定することとしております。がんばる地域プラン事業につきましては、県による中間評価がありましたので、この結果を踏まえ、今年度中に事業内容の見直しも図っていく予定としております。地域計画を策定中ですが、この実現のために地域内外から農地の受け手を幅広く確保しつつ、農地バンクを活用した農地の集約化等も図っていききたいというふうに考えています。あわせて、先ほど答弁をいたしました農地、農道、水路の補修や作業の効率化や担い手の確保など、継続可能な農業のための環境整備を図ってまいりたいというふうに考えています。

農業の関係では最後の御質問になりますが、農地の基盤整備にて地域計画を早急に取り組むということでもあります。農地の基盤整備についてですが、過去に大区画圃場整備事業の実施により、農作業の効率化等を検討したという経過がございますが、この結果、実施には至っていないとい

うのが現状でございます。これまで担い手農家が一部の農地を畦畔撤去による区画拡大を実施して農作業の効率化を図ってきておられるところであります。担い手農家との意見交換の場では、農作業の効率化のために、これまで農業機械の大型化は進んできましたが、1区画の面積が10アール程度と小さく、作業効率が上がらない、作業効率向上のためには畦畔撤去による区画拡大が必要であり、この畦畔の撤去及び田面高の調整に対しての補助制度の要望が寄せられています。来年度からはこの農地の畦畔撤去等に対して補助する制度の導入というのを検討をしているところでございます。こうした制度を活用して区画を拡大していくことで、大型機械の導入による農業生産性の向上及び面積当たりの作業労働時間の減少等につながっていくことが期待をされています。地域計画を策定する協議の場におきまして、担い手農家の耕作農地が分散化をしており、集約化が必要との意見もいただいています。担い手農家同士の耕作農地の交換等を行うことにより、畦畔撤去が可能となる農地が増加することも確認をできております。年次的に農地の集約化を図り、農作業の効率化を図りたいというふうに考えています。

次に、村政2期目の成果、今後の展望についての御質問でございます。

昨年の4月から村長2期目を務めさせていただき、現在1年と7か月が経過したところであります。議員からも御紹介いただきましたとおり、一昨年にはミライトひえづが完成するなど、一人一人に寄り添った子育て支援、教育の充実を図ってきているところであり、特に子育て世代の転入が増加をしています。県内では唯一人口増となっており、これは子育て支援施策だけでなく、各分野での取組により、住みよい日吉津村として選んでいただいているものと認識をしています。また、御質問にもあります国道431号沿道の民間事業者による開発が進められつつあり、今後の村の活力につながるものと期待をしています。そのほかにも商工会や村内企業など、民間事業者との連携も進めているところであります。これらはスタートして10年を迎えた地方創生の目指すところであり、一つの大きな成果ではないかというふうに感じているところであります。

今後であります、地方創生が10年目の節目を迎え、鳥取県からは、初の石破総理大臣が誕生されたところであります。初代の地方創生担当大臣でもあられ、地方創生2.0を進め、地方から日本を元気にしていこうということをおっしゃっているところであります。こうした現状を追い風にしながら、本村の地方創生の取組もバージョンアップしていきたいというふうに考えています。先ほど御質問にもありました農業振興にもつながる特産品の開発や販売促進など、地域として稼いでいく仕組みづくりを行っていきたくと考えています。あわせて、日吉津村のPRを戦略的に行っていくなど、日吉津村の知名度やバリューを高めていくとともに、ふるさと納税の増額等にもつなげていきたいと考えています。また、現在進めております海浜エリアの活性化は、

海浜運動公園再整備基本計画の策定ができたところでもあります。村民の皆様楽しく過ごしていただく公園として、また、このエリアが活力を持つことは、村全体の活力にもつながるものと考えています。そうした観点で整備を進めていきたいと考えております。子育て支援、教育のより一層の充実を図るとともに、活力があり暮らしやすいふるさと日吉津村として、子供たちの定着を図り、村民の皆様が安心して暮らしていけるよう、若者や女性、自治会の皆様など、様々な方々から御意見をお聞きしながら政策を進めてまいりたいというふうに考えています。

次に、現在課題となっている事業に関して、富吉北地区の開発道路交通安全について、また、431の渋滞対策ということでありました。富吉北地区の開発につきましては、現在、地区計画制度を使って事業者により開発が進められているところでもあります。現在、先週になりますけれども、1店舗、ディスカウントショップがオープンをして非常にこの週末も多くの車が走っていたなということで見ているところでございます。今後につきましては、これは計画の段階から周りの道路等については一緒に整備をしていただくということになっております。今後の店舗の混み具合等々を観察をしていきたい、見ていきたいなというふうに考えているところでございます。

431号線の渋滞対策につきましては、これ主に見ておりますと、やはり米子方面に向かうところの渋滞が大きな渋滞かなというふうに見ているところでもあります。夕方等々、朝等々ですね、非常にこれ渋滞が日吉津のほうまで続いてきているような状況があるというふうに認識をしているところでもあります。この渋滞を解消していくためには、一つには現在県や近隣の市とも一緒に要望しております米子一境港間の高規格道路整備、こちらを進めていくことがこの解消につながっていくものというふうに考えておりますので、これが実現に向かっていくように継続して要望等取組を進めていきたいというふうに考えています。

最後に、議会と執行部との連携についての御質問であります。言うまでもなく、議会は地方公共団体の意思決定機関であり、執行機関へのチェック機能を担っていただいているものであります。議会と執行部は車の両輪だというふうに例えられることもありますように、お互いに協力し、また、よい緊張感を持ちながら地方公共団体の運営を共に担っていくものというふうに考えています。ここまで行っている取組は、議会の皆様の御理解がなくては進めることができなかつたものばかりであり、皆様の御協力に感謝を申し上げたいと思います。いずれにしましても、目指すところは村民の福祉の向上であるというふうに認識をしておりますので、今後も議会と執行部が協力し合って、村民の皆様が暮らしやすい村づくりを行っていきたいというふうに考えております。

以上で、斉田議員からの一般質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（山路 有君） それでは、再質問を許します。

齊田議員。

○議員（1番 齊田 光門君） 農業に関してなんですけど、先ほどから村長の言葉、出てくるもの全て県の保障制度に基づいてという言葉が何回も出ております。正直言いまして日吉津村の中として保障制度を持たないんですかね。答弁をお願いします。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。財源として県の行っているいろいろな事業を使って、村としても取組を進めさせていただくことは非常に大切なことかなというふうに考えております。先ほど答弁の中で申し上げましたけれども、本村はブロックローテーションを行っていたところでありまして、これに係る交付金、団地加算金でありますとか飼料用米を作付されたときに交付をしております交付金につきましては、これは村独自で行っているものでありますので、村独自の課題に対応してそうした交付金なりの交付支援も行っているところでありまして、以上でございます。

○議長（山路 有君） 齊田議員。

○議員（1番 齊田 光門君） よろしく願いいたします。

先ほど保全会の話がちょっとちらっと出ましたけど、年に一回総会もありますし、その中で、例えばこれはどうしたらいいとか相談窓口みたいな形を取られてます。私も会員の中にはいますけど、正直言いまして、もともと富吉の方々が中心になって、この保全会をつくられました。その後、何年かたって、村の中の百姓、水稻やってるとかという人に対して入会してくださいという依頼がありました。何も、文書が来て、文書を提出しなかったら入会扱いにしますという強制的な流れで入会したような感じなんですけど、でも、本当いってそういった保全会の方々の今一生懸命例えば水路直したりとか草刈りをしたいとか、そういったことを本当皆さんの力でやられています。助成金もそれは保障してあげないといけませんし、その輪をぜひとも広げていっていただきたいと思います。それは要望です。よろしく願いいたします。

それと、日吉津村の今農業再生協議会にて主食用米、それと飼料米、各ブロック割で作付を行われておりますが、これは日吉津村だけのやり方と考えております。確かに品種ごとに生育過程が異なりますので、水管理、それと収穫など、時間が異なることはあります。作付品種を農家それぞれの考え方の下にできないものか、飼料米を必ず作付しなくちゃいけないのでしょうか、お答えいただけたらと思います。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。議員おっしゃいましたような自由な作付というのも、再生協議会の中でも御意見は出ているところであります。ただ、推計に沿って作付を行われるわけでありまして、その中でまとまった水稲なら水稲、野菜なら野菜というふうなブロックをつくってしていくことがやはり効率的になる。そうでないとなかなか隣近所で効率的ではないというようなことから、このブロックローテーションにつきましては、今後も続けていこうということが再生協議会の中で確認をされているところであります。以上です。

○議長（山路 有君） 齊田議員。

○議員（1番 齊田 光門君） 確かに一度建設産業課の方に、飼料米やめえけん、主食米作らせてごせやいと言ったんですけど、勘弁してくださいという回答でしたので、それはそれで自分なりに把握しました。

それと、個人農家は本当に激減し、請負業者がほぼ非常に多く稲作を作っております。ほとんど田植が終了してるのに、新たに代かきしてます。そのために草刈りする時間ありません。一回隣に稲刈りしてるときに、どげな、草刈りしてもらえんだあかって要望を示したけど、なかなかねということを言われました。というのがね、水路なんですけど、草が両方から来ます、水路に。それがもうたまってしまうと、本当にずっと300メートルぐらい、以前ちょっと9月のときにも質問したんですけど、そういった形で本当個人で300メートルの草刈りをせないけんですよ。結局皆さんやられないから、時間がないという流れがありました。これたしか9月の一般質問しましたが、そのとき答弁は、水路の路線の方で行うことが基本ということをおっしゃいましたが、今後ますます本当個人農家は減ります、間違いなく。なくなるかもしれません。農業管理が不可能となります。本当に対策できないでしょうか、全般的なことなんですけど。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。先ほど答弁をしましたけれども、やはり受けていただいている大規模なところにおかれましては、非常に草刈りでありますとか、あるいは窪が小さいので、これを合わせてケタを外してっていうのができていくといいなという意見が非常に多くいただいていますので、来年度はこのケタを外していただくようなところに対して支援をしていくようなことができないかということで今考えているところであります。

あわせて、草刈りという部分についても、やはり受けられるところが多くなればなるほどこれも大変だという話もお伺いをしていますので、その辺りへの対応ですとか、あるいは担い手の方ばかりがやられるのではなくて、もう少し地主の方等にもその辺り参加していただいてやっていけるような啓発というか、その辺りもやっていくのがよいのではないかなというふうに考えてい

るところであります。以上です。

○議長（山路 有君） 齊田議員、持っておられる資料がマイクに当たると雑音が入るということで、あと、それと答弁されるとき、質問されるときも両方ですけども、声の小さい方もおられて、収録しにくい。それから傍聴者の方も声が聞こえないという方もあるようですので、できるだけマイクを近づけて大きな声でやっていただきたいというふうに思います。よろしくお願います。

齊田議員。

○議員（1番 齊田 光門君） ある町じゃないですけど、市町村の中で、3年前からドローンを使った直播、早い話が種を直接圃場にまくというやり方をされております。田植機の使用する従来のやり方に比べると、苗はばらばらに植えられますが、収穫量は変わりません。時間も数分で終わります。生産性の向上はあります。機械の購入費も田植機に対してドローンは本当安いです。そういったことは考えられますでしょうか。

○議長（山路 有君） 福井建設産業課長。

○建設産業課長（福井 真一君） 齊田議員の御質問にお答えいたします。

御質問の直まきですね、現在、担い手農家さんが試験的に実施しとられて、収量もそこそこ上がっているというような結果から、来年度に向けてドローンによるスマート農業ですね、ドローンによる種まきを今検討されてるところですので、実施に向かわれるようであれば村としても助成とか検討してまいりたいと考えております。以上です。

○議長（山路 有君） 齊田議員。

○議員（1番 齊田 光門君） 次に、今米の出荷はJA主流でした、今までですね。現在、米穀業者に高価で出荷するルート販売が多く見られております。いわゆる価値観を上げるということですね。販売方法の研究も必要だと考えます。例えば日南町で有機農業に取り組む法人があります。そこでは今年の秋に収穫されるお米を現在の市場価格の3倍で販売を目指しているということを知りました。また、将来的に学校給食にも有機農産物を使用したオーガニック給食の提供を目指しております。日吉津村においても取組の是非はいかがなものでしょうか、お願いします。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。有機オーガニックということでありまして、非常に注目度高い取組だというふうに考えて見てるところであります。やはりこれやっていただく方があって成り立つことだというふうに考えておりますので、その辺りやってみてやろうという方がいらっしゃったら、その取組に対して村としても支援は考えていきたいと思っておりますし、また、

伯耆のきのこさんなんか、これもオーガニックということで取組を進められておりますので、その辺りもあわせて、こうした取組ができていければ日吉津村としてもいいのではないかなというふうには今私は考えているところであります。

○議長（山路 有君） 齊田議員。

○議員（1番 齊田 光門君） あと、採算の取れない稲作、離れる農家の大きな原因の一つとしては、戦後、パン食の普及により、米価も現在半額となっております。学校給食でも1食当たりの御飯の値段がパンより本当に安い。米価の低下を示しております。ぜひとも日吉津小学校の給食もお米を使用させていただきたいと考えますので、よろしくお願いします。

○議長（山路 有君） 答弁するということですね。

○議員（1番 齊田 光門君） はい。

○議長（山路 有君） 日吉津小学校での米飯給食。

横田次長。

○教育次長（横田 威開君） 齊田議員の御質問にお答えします。

現在、日吉津小学校で行っている給食は、どちらかというと米を中心に扱っておりますので、他地域のようにパンのほうが多いというふうなことなく、米が多い給食で運営なされております。以上です。

○議長（山路 有君） その米は日吉津村で生産されたものを使っている、ちょっとせっかくそういうことを質問されておりますので、その辺り米は食べているだけでは齊田議員の質問に答えるわけでないじゃないですか。

横田次長。

○教育次長（横田 威開君） 併せて質問にお答えします。

日吉津村作のお米かといいますと、実際に明らかであるのは子供たちが地域の皆さん、お世話になって農業体験活動で作っているお米は給食でもしっかり使わせていただいております。それ以外は学校給食会、県が出しますそちらの米を使っていますので、日吉津で作った米も入っているかもしれませんが、じゃあ、それがどれだけかというふうな厳密な数値等は把握はできておりません。以上です。

○議長（山路 有君） 齊田議員。

○議員（1番 齊田 光門君） なるべく日吉津の米をお願いいたしたいと思います。

あと、農業に関してなんですが、本当に今、個人で稲作をする人、本当にいなくなりました。いずれ本当に請負業者、今どんどんどんどん増えております。個人農家やめていくと思います。

なくなるでしょう、最後には。機械がなくなればもうやめますから、正直言って。そうやって、保全会の方とか今回議員懇談会の中で話が出たのが、恐らく自分たちが高齢です、5年、10年先にはみんな個人でやる者いなくなると。請負業者がみんなやって、そういう時代が来るんじゃないかということを言われました。そうなった場合、村としてもそういった請負業者の方に助成金、やっぱりたくさんじゃないですけど、そういった形で考えていかないと、人も雇えない。今例えば3人でやとる。1人増やし2人増やしできません。もうパンク状態だと思いますね、正直言って。機械にしても今の例えば3台ある、じゃあ、もう1台増やそうかという感覚も出てくると思います。それだけの請負が物すごく今、ほぼ本当個人農家なくなりますね。そのときにはぜひ助成を考えていただいて、請負業者が成り立っていくような形をつくってあげてください。これはお願いでいいですかね。もし答弁していただいてそういったことも頭にあるということならば、またちょっとお願いできたらと思います。お願いします。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。やはり本村におきましては、大規模な担い手があり、そして中小規模の個人農家がありということで成り立っているというのが現状だと思っています。最初にありました個人の農家の皆さんにおかれましても、できるだけ後継ぎとかができていくように、そこは現状等々も教えていただきながら、村としてもできるお手伝いはさせていただきたいなというふうに考えているところであります。

また、あわせて、担い手の農家につきましては、この答弁を通じてもお話をさせていただいておりますけれども、なるべくその作業がしやすい効率化が図れるような取組でありますとか、そういったところで、ぜひ非常に多くの部分を担っていただいているというような現状がありますので、しっかりと成り立っていただけるように今後も注視しながら応援をしていきたいというふうに考えております。以上です。

○議長（山路 有君） 齊田議員。

○議員（1番 齊田 光門君） 続いて、課題等の内容でございますが、まず、富吉北地区計画ですね、交通安全対策。この計画の開発が開始されまして、現在、ミスター・バーク、それとラ・ムーなど開店しております。今後、大阪王将、間もなくカインズ、カインズは来年の開店予定だと思っておりますが、さらに今既存でイオン、それとアスパルなども隣接しております。商業スペースであるがゆえに、車両に対する交通安全対策が重要視となると考えます。日野川の右岸道路もこれは令和10年の完成予定ですし、当計画は商業系都市計画の最低基準に基づき、2車線の片側歩道つき、幅が9メートルとして今改良をされております。その中で国道431号から海

岸からの狭い抜け道、それと急激に細くなる今吉地区への幹線道路などに対して、先日の議会懇談会でも出てましたが、村民からの指摘もありました。現状で交通安全対策を考えるべきじゃないかと。今全部開通してから、じゃあ、今後、対策を打っていくと、様子を見ながらやっていくという答弁がこれまでありましたが、そういった意見もありましたので、現在、あとカインズと大阪王将ですけど、このラ・ムーもすごい車が止まっています。そうなってくると、ミスター・バークもすごい並んでますね、正直言って。なってくると、恐らく431がかなり混むんじゃないかと、今後。そういう、年末年始迎えますので、県外者帰ってきます。身動き取れなくなるんじゃないですかね、という考え方もありまして、現状を見ながらということはよく分かりますが、いかなものでしょうか。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。生活道路のほうに来訪する車両が入っていくのではないかと御心配もあることから、一部道路の狭窄、狭くするようなポールを立てて、こちらに車両が入ってこないようにというような少し誘導の対応は図っているところであります。御心配のとおり、本当に今、年末年始等々、車が増えてくるということも想定をされると思います。繰り返しの答弁になりますけれども、ちょっと状況を見ながら、先ほどのような対応もさせていただいておりますけれども、様子を見ながら対応を検討していきたいというふうに思っています。以上です。

○議長（山路 有君） 齊田議員。

○議員（1番 齊田 光門君） 次に、恐れ入ります、国道431号、あわせて、渋滞に対してですが、米子一境港間の道路では、本当にどういいますかね、通過交通と生活交通、私たち村の人には生活交通です。それが混在しています。そういったゆえに、高規格道路が整備されると、産業と村民の生活交通が分離し、産業とかの発展に安全・安心につながることは間違いないと考えます。しかし、国道431号線に関連する米子境港高規格道路は、取りあえず今回からルートを考えるという結論が出たように完成見込みということになっておりますが、今まで県が本当431に右岸車線に追加したり、そういった形でちょこちょこちょこ、マクドナルドのともそうでしたけど、少しずつ県が修繕というか追加でやっておりましたが、全く意味もなかったです。渋滞、これっぽっちも解消しません。早急に、本当に早急に、今富吉北のこともありますけど、早急に国県に対して米子市と合同で渋滞緩和の要望をしていただくことは大切なことだと思います。よろしくをお願いします。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。高規格道路の関係でございますけれども、これまでから引き続き米子市、境港市さんや県と一緒に実現に向けて要望をしているところであります。現状といたしましては、まだ凍結が解除されたわけではありませんが、まだこれ事業、どうするかというのは国のほうを中心に検討をいただいているという段階かなというふうに思っています。そうした中で、先月の22日ですか、国と県、それから2市1村が一緒になった勉強会というのでも開催をされまして、この中で、これなかなかこれまでより一歩進んだ検討を進めていただいているかなというふうに受け止めているところですが、この中で今課題の整理でありますとか、その必要性というのをまとめてきている段階でございます。その後、国の事業スケジュールになってきますけれども、凍結解除でありますとか、あるいは計画段階評価というものでありますとか、そういったことと併せてルートの検討というようなことになってこようかというふうに考えておりますので、引き続きまして本当に431の渋滞解消には高規格道路の整備というのが大きな役割を果たすというふうに認識をしておりますので、引き続き要望を行っていきたいというふうに考えています。以上です。

○議長（山路 有君） 齊田議員。

○議員（1番 齊田 光門君） 最後にでございますが、海浜運動公園のことについて、これは私からのお願いです。グラウンドゴルフやられる方はほとんど年配者の利用が多くあると考えられます。本当に皆さんに聞くと、歩いてよう行かんわ、自転車でもなかなかエネルギーを使いますよね。高齢な上に海岸までよう行かんわということを言われますが、村の中央にあれば本当に一番いいんですけど、現状どうすることもできないと思います。もう計画に入っておりますので。

あと西側の左岸側から進入通路となれば、例のセンターですね、これが西側の左岸側から進入通路となれば海浜運動公園内を通らない、有効に使用できると考えます。これは土地買収とか必要になりますので、隣接する畑など土地買収も必要になってくるとは思いますけど、有効利用が可能とは考えます。しかし、時間がないとは思いますが。

あと、本当に一言言いたいのは、村制100周年の記念行事で、堀内孝雄のコンサートを開催いたしました。非常に感動いたしました経緯があります。何とぞ8年ですか、これから村民の広場と子育て交流施設を一番のターゲットとして充実した施設にしてほしいと考えております。本当に村民の子供からお年寄りまで集える場所になればと期待しておりますので、よろしく願いいたします。

なお、行政と議会、そして村民の皆様、この前、二、三日前に説明はありましたけど、日本海新聞にも出ております。そういった意味でもありますが、議会と行政、なるべくオープンな形

で、そして村民の方にもなるべく分かりやすく説明していただいて、より多くの意見をいただいたら、よりいいものができると思います。何とぞよろしく願いいたします。以上、終わります。

○議長（山路 有君） 以上で、斉田議員の一般質問を終わります。

○議長（山路 有君） ここで昼休憩に入ります。再開は午後1時から行いますので、当議場にお集まりください。

それでは、昼休憩に入ります。

午後0時00分休憩

午後1時00分再開

○議長（山路 有君） それでは昼休憩前に引き続き再開いたします。

通告順4番、石原浩明議員の一般質問を許します。

石原議員。

○議員（6番 石原 浩明君） 私は、英語検定等の受検料の助成をという一般質問をさせていただきます。

2020年4月から学習指導要領が変わって5、6年生が外国語活動から外国語科を学習することになり、外国語活動の開始が3、4年生に早まりました。日吉津村では外国語指導助手、ALTが小学校に単独配置されています。こども園でも英語遊びをされていますが、ALTがほぼ毎日学校にいたので、英語の授業以外の活動や休憩時間などにも触れ合えるという英語教育によって恵まれた環境であると思います。2020年の学習要領では、3、4年生の外国語活動の目標がコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する。そして、5、6年生の外国語の目標は、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目指すとなっています。このように小学校段階では英語に興味を持ったり英語でコミュニケーションをしてみようという意欲を持ったりすることが一番大切だと思います。村の様々な活動にもALTが参加されており、子供たちがALTに気さくに英語で挨拶したり話をしている姿を私も見えています。このように、日吉津村では、コミュニケーションへの意欲を持った子供が育っているのではないかと思うところです。

このように、意欲というのが一番大切ですが、一方で、そうした意欲を持った子供たちが中学校での英語学習を重ね、英語検定などの資格試験にも挑戦しようとするのではないかと思います。そこで、鳥取県内西部地区のほかの町でも行っているように、学習意欲を高めるために英語

検定などの受検料の助成を行ったらどうでしょうか。

あわせて、現在、ALTによる英会話教室や様々な英語の活動は行われていますが、さらに国際交流の機運が盛り上がるような活動を進めてはどうかと思います。以上、質問とします。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 石原議員からの御質問にお答えをしてみたいと思います。

英語検定等受検料への助成をという御質問でございます。

議員からもありましたように、日吉津村では、日吉津小学校にALT、外国語指導助手を単独配置を行っています。全国的にも1校に1名という配置は珍しく、通常は数校に1名配置であるために、全ての外国語及び外国語活動の授業にALTがいることは少ないわけでありましてけれども、日吉津小学校では全ての外国語、外国語活動の授業にALTが参加をしています。児童はALTのネイティブな発音を常に聞き、英会話の練習をすることができます。昨年度、県教育委員会の紹介を受けて、小学6年生全員が英検ESGというのを受検をしました。これは通常の英検の級ごとの検定と異なり、合否を出すものではなく、受検をすることで英語を聞く力と読む力をはかることができるものであります。受検の結果、日吉津小学校6年生の聞く、それから読む力は高いということが表れてきたところであります。ALTの単独配置の成果とも考えられるのではないかというふうに感じています。毎週月曜日はALTがこども園に行き、英語遊びを実践しています。数字や色など簡単な英語を言うだけではなく、英語に関心を持ち、ポスターや看板に書いてある英語を楽しく読んでみる姿も見受けられるところであります。また、毎週火曜日、月に3回はヴィレステひえづ会議室で交流英会話を実施しております。大人も子供もふだんの会話を英語でできるよう、様々な英会話を楽しみながら学んでおられます。

県教育委員会では、中学生向きの英検IBAというのを県内全公立学校全生徒が受検する体制を3年前から整備をしているところであります。小学生が右脳についてははかるのに対して、英検IBA、中学生では、読む、聞く、書く、話すの4技能で力をはかることができるということでもあります。英検の授業料助成ということにつきましては、近隣でも行っている町もあるということでもあります。そうした動向にも注視をしながら、日吉津村における助成の在り方を検討してみたいというふうに考えております。

また、ALTの今後の活用につきましては、小学校、こども園での活動が基本となると考えておりますけれども、現在行っております活動をベースに、その拡充を図っていけないか検討してみたいというふうに考えております。

以上で、石原議員からの一般質問への答弁とさせていただきます。

○議長（山路 有君） それでは、再質問を許します。

石原議員。

○議員（6番 石原 浩明君） 英検等の助成、私の調べたところ、伯耆町、日南町、大山町がこの近隣ではやってると思います。そのほか県内いろんなところでやってると思うんですけど、あと、検討ではなくなるべく早いうちに我が村もやられるというのがせっかく英語の教育でそういう読む、聞くとかで高い能力を持っているということや、せっかく単独配置しているので、来年度でもやってもらったらと思うんですけど、教育長とかの考えはどうでしょうか。

○議長（山路 有君） 井田教育長。教育長、少し大きな声でお願いいたします。

○教育長（井田 博之君） 了解しました。

石原議員の御質問にお答えしてまいります。

今御指摘、お話ありましたように、英検E S G、小学校におけるエレメンタリー・スクール・ゴールズですけども、県のほうの指摘やなんかを見ますと、これは小学校の段階では何かを判定するというものではないんですけども、およそ9割以上の回答をした子が半分程度いるということで、非常にレベルの高い力をつけてきているというふうに県のほうが報告してくださいました。村長答弁でありましたように、A L Tの役割が生きているなというふうに考えておるところでございます。

今後一層の社会のグローバル化が進展することに間違いのないというふうに考えているところでございます。その中で、英語に親しみ社会生活に英語を取り入れていくことが必要になり、英語力の向上が求められる社会になると思います。そういう中において、一層英語の英語力のレベルを高めるためのこれも村長答弁にありました中学生向けの英検I B A、インスティテューション・ベースド・アセスメントですけど、このようなレベルをはかることのできる検査、検定にチャレンジすることはとても大切なことだなというふうに思っておりまして、英検等々についてチャレンジすることを促進することは必要だなというふうに考えております。そういう考え方で助成の在り方を検討してまいりたいというふうに思います。以上です。

○議長（山路 有君） 石原議員。

○議員（6番 石原 浩明君） 私たちの時代では、英語検定という試験だったんですけど、今英検E S Gがエレメンタリー・スクール・ゴールズということですから、小学校のゴールをはかる、それから英検I B Aというやつについても、私も調べましたけど、能力を調べるということですので、英検というのはちゃんとした資格としてもらえるものだと思うんですけど、その辺の違いはこの把握でいいんでしょうか。

○議長（山路 有君） 横田教育次長。

○教育次長（横田 威開君） 石原議員の御質問にお答えします。

おっしゃったように、英検 I B A等については、結果のみ大体どういうふうな力ですよというふうに通知されるもので、英検については級の検定になりますので、合格証というふうな形で出ることになります。それで、英検 I B Aは中学校 2 年生が大体実施することになっていて、箕蚊屋中学校 2 年生が全員、当然日吉津村出身の子供たちも受けてることになるんですが、英検 I B Aでは大体あなたは今の状態で英検を受けたときに何級相当の力ですよというふうなこともその結果の中で伝えられることになっています。ですので、先ほどおっしゃったように、何かその英検を受けていこうというふうな意欲につながっていくのではないかという点では、それを見て、あっ、自分はこの力があるんだらってということで英検を受検した生徒たちがいるっていうことはこちらのほうも確認しております。以上です。

○議長（山路 有君） 石原議員。

○議員（6 番 石原 浩明君） 私も鳥取県の資料を持っていますけど、中学 1、2 年生で、あっ、英検 I B Aの 2 技能型の試験を受けて、中学 3 年生で 4 技能型の外部試験をそれぞれ実施しますというやつが、昨年度でしたかね、昨年度の県教委の資料ではそういう具合に出ていました。先ほど、何人かは英検の試験を受けてみたということ把握されているということですけど、具体的に日吉津村出身で何人とかってというのは把握されているのでしょうか。あるいは小学生で英検に挑戦をする子供とかはいるのでしょうか。

○議長（山路 有君） 横田次長。

○教育次長（横田 威開君） 石原議員の質問にお答えします。

日吉津村出身の小学生、中学生が、何人が受けて、何人が持ってってというふうな状況については、ちょっとこちらでは把握することができません。中学生については、多くの子供たちは、例えば習ってる英会話の団体を通して申し込むケースのほうが多くて、その状態を日吉津村教育委員会が把握することは非常に困難ですので、持ってってというふうな話をちらっと聞くこと等がありますが、実際に何人ぐらいが持ってってというふうなことは分からないのが現状です。

小学生のうちに英検を受けてってというふうなことは、これまであんまり聞いてはいないです。以上です。

○議長（山路 有君） 石原議員。

○議員（6 番 石原 浩明君） 先ほど、近隣のことを私も言いましたけど、例えば大山町では、グローバル社会に対応できるコミュニケーション能力を高めるための英語力とその学習意欲を高

めるために、検定料の一部または全部を助成しますという具合な事業をやっておられます。さらに大山町では、町民全てがこういった趣旨で英語を学習するために、町民の検定を受検する者に助成をしたりとか、今年度は英検の準会場とって、通常の本会場は英語検定協会がやるわけですけど、中学校とかも準会場にできるところに大山町も準会場を設置して、そういう事業を進めているということなんですけど、そういうことも含めて、そんなようなことも考えてみてはどうでしょうか。

○議長（山路 有君） 石原議員、村長のほうがいいですかね、教育長でいいですか。

○議員（6番 石原 浩明君） じゃあ、すみません。

○議長（山路 有君） 井田教育長。

○教育長（井田 博之君） 石原議員の御質問にお答えいたします。

大山町の行っていらっしゃる助成についての御説明がありました。そこに、今お話がありましたように、助成をする対象、子供だけなのか大人の方々、意欲のある方々についても助成するのか、そして、その費用の助成する上限は幾らなのか、聞くところによりますと、筆記試験に受ければ何回か面接が受けれるということで、何回助成するのかとか、それから、対象とする検定は英検だけなのか、英検もいろんな種類があったり、TOEFLがあったりというようなことがございますので、それをどうするか、そういうようなこと、様々なことを検討して進めていかなければならないなというふうに、今、考えているところでございます。

会場ですね、会場に関しては、今のところ準会場を中学校でやる、小学校でやるということに急にはならないと思います。ヴィレステでやろうとすると、ヴィレステはBGMが流れていたり、それから村内の放送が流れることもあるので、この英検の面接会場としてはふさわしくないというふうなことが以前、話の中で出ていたということは聞いております。

ということで、準会場をすぐ設けるということには、まずはこの助成を検討してからだなというふうに考えております。以上でございます。

○議長（山路 有君） 石原議員。

○議員（6番 石原 浩明君） すみません、準会場については、私もつい、大山町ではこうしたこともやっておられますよということのつもりでしたので、いきなり準会場ということや大人の助成ということは私も、まあ、そうなったらいいかもしれませんが、考えてはいませんので、取りあえず子供たちですよ、中学生、高校生、あるいは意欲があれば小学生ということをもも考えています。

それで、先ほど検定料とかの話がありましたけど、大山町では1人につき上限1万円っていう

ことで、複数回の受検料を合わせても申請することはできないので、年度中1回という具合になってます。検定が、例えば英語検定だったら5級から1級ぐらいまでであると思いますが、1級になると1万2,500円ということをおも調べましたので、その全部ということではありませんけど、1万円ということだったら、全ての子供が何とかしても何とか賄えるぐらいじゃないかなと思いますので、どうでしょうかというところです。

あと、助成対象の検定については、中学生、高校生ではやはり英検が主になると思いますが、行く行く範囲を広げていくと、そのほかのアメリカの留学に向けての試験とか、イギリスはこっちの試験が大学の入学の条件になるとかっていうことがあるので、そういうことも検討しないといけないと思いますが、ほかの近隣のところを調べてもらえば、そういうこともやっているとところがあるので、参考にしてもらったらいんじゃないかなと思います。

ほかに、せっかくですから、私たちの時代には中学校でしか英語がありませんでしたが、先ほど、小学校の英語の目標をおも私なりに言ってみたんですけど、コミュニケーションを図る素地となる資質能力とか、コミュニケーションを図る基礎となる資質能力とかを小学校では目標にしているということですが、そのほかに何か付け加えがあれば教えてもらったらと思います。

○議長（山路 有君） 横田次長。

○教育次長（横田 威開君） 石原議員の御質問にお答えします。

初めに、質問の中で石原議員から、小学校段階では特に英語に興味を持ったりコミュニケーションをしてみようという、その意欲を持ったりっていう、そういう力を育てるのが大事だっていうふうなありがたい言葉をいただきました。まさにそのとおりだと思っています。

それで、小学校は、その前の話でもありましたように、小学校5、6年生が外国語活動から外国語に変わりました。これはただ名前が変わったのではなくて、教科になったっていうところです。我々が一番危惧しましたのは、教科になることで、基本的には意欲は下がる、嫌いになる。要するにテストが出てくるので、嫌いになっていくっていうふうなところで非常に心配になるところなんですけど、ALTの配置等もあって、また人と人とのつながりをしっかり持った中での英語学習が進められてる中で、子供たちは意欲を下げずに、意欲を持って学習にも参加してる結果が、前回のIB、ESGの中で出たものではないかなというふうに思っています。

小学校では、また中学校につながるための意欲を持った学習が継続できるように、またその、何ていいますかね、仕組みをこちらで投げかけていくことも踏まえて、ALTと協力した活動の広がりということを考えていきたいというふうに思います。以上です。

○議長（山路 有君） 石原議員。

○議員（6番 石原 浩明君） 小学校での英語科、英語活動がうまくいってるということなので、すごく、何ていうんですかね、私もうれしいと思いますので、このまま意欲的な子供たちを育ててもらえたらなと思います。

次に、国際交流の機運が盛り上がるような活動ということです。

先々週ぐらいにひえづ113chで、アーカイブの中でモンゴルの馬頭琴の演奏とかをやっていまして、それが国際交流の、何ですかね、国際交流協会だか主催ということだったんですけど、今、そういう国際交流の取組はどうなっているかということを知りたいんですけど、いいでしょうか。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。今も引き続き国際交流協会という団体が村内にありまして、活動していただいているわけですが、コロナ以降、そうした国際交流のイベントとか、そうしたような活動は具体的には行っておられないというのが現状のように伺っております。以上です。

○議長（山路 有君） 石原議員。

○議員（6番 石原 浩明君） 私もちょっとホームページで、日吉津村のやつでは出てこなかったんですけど、鳥取県の国際交流とかのページで各市町村の名が出てきて、日吉津村国際交流協会というのもし出てきましたが、日吉津村の場合は設立の目的がオランダ・ヒレゴム市との交流ということで、2000年の8月30日に設立されているようです。活動実績は、今、モンゴルの子供のホームステイ受け入れとかってということが書いてあるので、ここ数年はやっていないのかなとやっぱり思いました。

やっぱりこういうことも国際交流とか大人のほうも進めるとというのが、やはり小学校の英語科とか英語活動の中でも、ほかの文化に対する理解を深めるということもあるので、村全体でやっているっていうのも小学生、中学生にとっても大事だと思うんですけど、どんなものでしょうか。

じゃあ、もう1個。

○議長（山路 有君） はい、石原議員。

○議員（6番 石原 浩明君） 所管はどこのやるということになるんですかね。これを見ると総合政策課と書いてあるんですけど、あるいは教育委員会にも関係するかなと思ったりするんですけど、その辺はどうなんですか。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。先ほど答弁申し上げました国際交流協会につきまし

ては、総合政策課のほうで所管をして担当をしています。以上です。

○議長（山路 有君） 石原議員。

○議員（6番 石原 浩明君） 今の所管は総合政策課ということですけど、今後も総合政策課、あるいは教育委員会もかむとか、どういう具合なことを考えているのか、あるいは今後の事業とかがっていうことは何か考えておられるのでしょうか。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。今、国際交流協会、ここしばらくは事業を行っておられないということでもあります。ただ、議員おっしゃいますように、教育委員会のほうが所管をして、国内の交流にはなりますけれども、沖縄に子供たち行ったり、向こうから来られたりというような交流をやっていますし、また、中学生は御案内のとおり、オーストラリアのほうに派遣をして英語の交流というようなことにも力を入れているということでもあります。その辺り、どういった交流をやっていくのかということも考えながら、やっぱり教育委員会にもぜひとも一緒にやっていくのがいいのではないかとこのように考えておりますので、その辺り一緒に取組、何か思いついていければいいかなという感じはしております。以上です。

○議長（山路 有君） 井田教育長。

○教育長（井田 博之君） 村長の答弁でございますように、教育委員会も一緒になって国際交流の機運を盛り上げられるようにしてまいりたいと思っておりますが、先ほど、英語科、英語活動の目標についてのお話がありました。個人的にですけど、英語をしゃべればいいというのではなくて、何を伝えるかがとても大事だと。意欲と同時に、伝えたいことを明確にする、それが明確じゃないと英語が出てきませんので、自分の伝えたいことは何かというのをきちんと自覚するという目標も持って進めていかなければならないなというふうに考えております。

オーストラリアに行って同年代の子供同士で会話をする、英語は片言になるかもしれませんが、それでも気持ちと気持ちは通じ合う。それは一緒にホームステイしたり、それから現地の学校と一緒に授業を受けたりしていると、どうしても伝えたいことがはっきりしてきます。それが交流のよさだなと思っております、そこで伝わらなくても、何とかして自分の思いを伝えようと子供たちは一生懸命努力する、それが大切なことだなというふうに思っております。

なお、今後目指しておりますのは、小学校と、どっか英語圏の国の現地の学校とオンラインで交流をしたいなというふうに考えております。そういうことをあっせんしてくれる業者もありますし、それをちょっと研究していきたいなというふうに思っています。そういう子供たちの姿が村民の皆さんに伝わって、いい影響が広がっていくといいなというふうには考えておるところでござ

ざいます。以上です。

○議長（山路 有君） 石原議員。

○議員（6番 石原 浩明君） ありがとうございます。

私も教育長と同じように、意欲と一緒に何を伝えるかという内容が大事だと思います。そうすればなおかつ、例えば外国の人とかが一緒にしゃべるとなれば、自分の紹介や日吉津村の紹介をするわけですから、そこで伝えないといけないということができるわけですから、より一層交流活動が大事になると思いますので、ぜひ進めていただきたいと思います。

ちょっと島根県的美郷町というところのホームページを見てみました。そこはインドネシア・バリの小さい村と、ずっと30年間交流しているようでした。ホームページも何かすばらしいものなので、また後で見てもらったらいいと思うんですけど、それは島根国体のときにカヌーの会場になったということで、世界のカヌーを集める中で、このインドネシアのカヌーの職人を1か月ぐらい呼んで作ってもらったということから交流が始まったみたいです。という具合に、何でも30年ぐらい続くということと、珍しいところでやっているとというのが一個強みだなと思います。

日吉津村も昔はオランダのヒレゴムと交流を進めようとしていたわけですけど、チューリップが下火になり、オランダはちょっと遠いということでなかなか交流しにくいということなので、教育長が小学校のオンラインということはありませんでしたが、そういう国際交流とかで進める中で、どっか、例えば台湾とかシンガポールでもやってみて、あっ、こことかいいなということが見つかるかもしれないので、ぜひ、ちょっといろんなところを声をかけてもらって、情報を集めてもらうというのがいいじゃないかなと思いました。それについてはどうでしょうか。

○議長（山路 有君） 横田次長。

○教育次長（横田 威開君） 石原議員の質問にお答えします。

冒頭、鳥取県内、近隣の町の取組等も、既に英検の助成等を行ってるところについても紹介いただきましたが、いろいろなところの取組の中から日吉津に合った、また日吉津でより効果的なものをぜひ選んでいきたいなというふうにも思いますし、参考にできるところは参考にしたいと思いますので、またいただいた情報も参考にしながら、情報をしっかり入れていくことも努めたいと思います。ありがとうございます。

○議長（山路 有君） 石原議員。

○議員（6番 石原 浩明君） 最後に、途中で言いましたけど、例えば1人1万円上限、年1回とかということですので、検討のスピードを速めてもらって、ぜひ取り組むという具合なことはどうでしょうか、村長。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。検討してみたいと思います。ありがとうございます。
た。

○議員（6番 石原 浩明君） じゃあ、以上で終わります。

○議長（山路 有君） 以上で石原浩明議員の一般質問を終わります。

○議長（山路 有君） 続きまして、通告順5番、江田加代議員の一般質問を許します。
江田議員。

○議員（3番 江田 加代君） 3番、江田です。

私は、離農者が出ない対策を求めて質問いたします。

先ほど、同僚議員さんも農業問題を質問されました。少し角度が違うかなって感じですけども、質問させていただきます。村長の答弁、よろしくをお願いします。

1960年に78%だった日本の食料自給率は、現在、先進諸国最低の38%まで低下しています。肥料、飼料、種子の大半も海外に依存していることを考慮しますと、実質……。

○議長（山路 有君） 江田議員、ちょっとマイクを下げてやってください。はい、ありがとうございます。

○議員（3番 江田 加代君） 肥料、飼料、種子の大半も海外に依存していることを考慮すると、実質10%以下とも言われています。

農業者の方の声を一部紹介しますと、高齢になって自分が故障するのか農機具が故障するのかわで、どちらが先かわからん、何百万円もする機械を買っても元が取れない。また、農機具が壊れて農業をやめるといふ者が後を絶たない、せっかく後継者ができたのに農機具のローン返済に苦しんでいる、米価が安過ぎて幾ら米を作っても赤字、米を作っても飯が食べねえだという感じだそうです。田んぼがあるけど、米を買って食べている、政府は輸入が当たり前という考えを取ろうとしているが、まずは自治体からでも国内産にしっかり目を向け、関心を持ってもらう姿勢を示すことが大事だと考えたなどの声を聞かせていただきました。

1960年代以降、農産物の輸入自由化により、日本の農業は衰退してきました。近年は、米作りは時給10円、畜産、酪農は赤字経営が続き、どこも農業者の平均年齢は67.9歳と、これは2021年の統計です。高齢化していると言われています。

今年の夏以降、不作でもないのに主食の米が店頭からいきなり消えた米不足を通じて、食糧危機が消費者にとっても自分事として捉えることができたのではないのでしょうか。

昭和17年に制定された食糧管理法では、米価は市場取引によるのではなく、供出を前提として生産コストを補償する米価の決定がなされてきました。政府が農家から生産者米価で米を買い入れ、消費者へは消費者米価で売り渡す二重価格制度です。国民に安定的に米を提供することを目的としていました。

農業は価格保障及び所得補償がなければ継続できません。行政として、家族農業を再評価して、離農者がこれ以上出ないように、よろしく願いいたします。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） それでは、江田議員からの御質問にお答えをしてみたいと思います。

離農者が出ない対策を求めるといふ御質問でございます。

御質問の中にありました、非常に農業を取り巻く環境は厳しい状況が続いているというふうにご認識をしております。その中で、本村におきましては、農業将来ビジョンというのをつくって取組を進めているところであります。その中では、先ほども別の議員のときに答弁もいたしましたけれども、担い手となる大きな事業者と併せて、中小の農家の皆さんにも頑張ってもらいたいというようなことで取組をこのビジョンで考えているということでもあります。

その上で、現行の食糧法の下では、米は自由に販売ができ、価格も自由に決められるようになっております。需要の減少が進む中で、米の総体取引価格は減少傾向にありましたけれども、昨夏の記録的高温の影響による収穫量の減少、インバウンドの増加による消費量の増加、小麦価格の上昇に伴う消費量の増加、南海トラフ地震対策としての家庭での備蓄の増加などの影響により、米の総体取引価格は上昇に転じており、この傾向は今後も続くのではないかというふうに言われています。

本村におきましては、水稻作を主とした小規模兼業農家が多く、従事者の高齢化や後継者不足により年々減少をしています。本村の水田作につきましては、需要に即した生産を行うためのブロックローテーションによる主食用米と転作作物の計画的な作付が行われているところでありますが、この農業者の経営安定に資するように、大豆や飼料用米、白ネギ、ブロッコリーなど、転作作物の作付について、これは国からの交付金も支払われておりますけれども、それに加え指定ブロックにおける転作作物の作付については、村単独での団地加算金や飼料用米作付助成金というのを交付をしているところであります。

また、コロナ禍におきましては、大変外出需要の減による米価の下落や肥料、農業資材の価格高騰など、農業者にとっても大きな影響があったわけでもありますけれども、本村におきましては、農作業省力化支援事業として、自走式草刈り機の導入支援であったり、あるいは米価の下落分に

対する補助、また農業資材の高騰分に対する補助など、農業者の状況や御意見をお聞きして、村独自の支援をこれまでも行ってきているところであります。

今年度は、イネカメムシの防除の対策として、防除作業に対して補助を行いました。県の補助制度では、ラジコンヘリによる防除の散布費のみが補助対象でありましたけれども、本村では防除作業促進による収量、品質確保のため、薬剤に対しても加算して補助をしたところであります。また、ヘリ防除ができない圃場の薬剤購入に対しても補助するほか、農業者の御意見を踏まえ、早稲の品種にも対象を広げて補助を行ったところであります。作況指数は平年並みということでお聞きをしています。

また、農家の収入を補償する仕組みとして収入保険がありますが、本村におきましては掛金と事務費相当の金額の2分の1を助成をするというような仕組みも設けております。

本村の基幹作物である米に関しては、今秋以降、米政策の見直しについて議論が本格化することになっており、その動向を注視してまいりたいというふうに考えております。

今後も農家に寄り添い、きめ細やかな農業施策を実施してまいりたいと考えているところであります。

以上で江田議員からの一般質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（山路 有君） それでは、再質問を許します。

江田議員。

○議員（3番 江田 加代君） ありがとうございます。

先ほど、秋以降の米政策の見直しが行われるように御答弁いただきました。そこで、今、国会のほうでは農村基本法が25年ぶりに改定になっております。それに合わせて、またビジョンが作成されるそうなんですけれども、私、このたびの午前中の同僚議員さんの答弁をお聞きしたりして、本当に日吉津村の5年先、10年先の農業がどうなっているのかなということがとても不安になりました。

まず、恐らくこの食料・農業・農村基本計画が国のほうで策定されると思うんですけど、それが秋以降の見直しの中に入ってくるのかなと思いつきながら聞きました。参議院のほうで議論になるときに、農林水産委員会での参考人質疑っていうのがありますけど、その参考人さんっていうのが島根県の出身の方でしたけれども、その方の、何ていいますか、お話しになられたことを読みました。そうしたら、まず冒頭に、これまでの農業を支えてきた小規模・家族農業を支援することがまず大事で、規模の大小を問わず、全ての家族農業を政策の対象として、家族経営の果たす役割を再評価し、農業再生の主人公にする、小規模でも高齢でも多様な農業経営が成り立つ

ような政策がとても必要と考えますというような趣旨でお話しされました。

それですけれども、最近、他町の議会の議長さんが石破総理をお訪ねになったそうです、御挨拶に。農業の問題が話になりました。そしたら、これからの農業は輸出だによって言われたそうです。輸出っていうことを耳にして帰ってきたという、どげなことになあだあかっていうようなことだったんですけれども、本当に私、これから先10年、この間も議会懇談会のときに、もう10年先になったら日吉津村も農業者がおらんやになあでって、法人を何とかして助けないけんじゃないかというような意見も出ました。この辺りで、少し、何ていいますかね、午前中の答弁を聞いておって、これでいいのかなと思いました。

今の島根県出身の方の参考人の質疑をお聞きになつての感想を聞かせてください。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。今の参考人のお話ですけれども、まさにそのとおりだなというふうに私も考えております。やっぱりこれまで地域の農業、日吉津村にしても、支えてこられたのは、やはりこの家族経営だったりとか、中小の農家の皆さんが支えてこられたというふうに認識をしておりますので、ぜひそういった皆さんにさらに活躍していただけるような政策を検討いただきたいというような思いは私も同感であります。以上です。

○議長（山路 有君） 江田議員。

○議員（3番 江田 加代君） ありがとうございます。

そこですけれども、今、1つ、農業の家族経営の農業を見直すっていう辺のことにも触れておられまして、地球の面積の4分の1を占めるにすぎないアジアが世界人口の6割以上を養っていると。それはアジアモンスーン気候を生かした水田の生産力と言われて評価されているそうです。本当に日本の農業も大きな底力を持っていて、持続可能な地域農業を維持するために、今こそ家族農業を再評価して、持続可能なやり方で多様な生産物を生産する安定した条件が消費者の笑顔にもつながっていくというようなことも述べておられます。

私、本当にこのとおりだなんて思うんですけれども、私はさらに、この改正されます農村基本法なんですけど、その基本法の中に微妙に消えた言葉っていうのをおっしゃってまして、まず食料自給率っていう文言がありません、その計画には。それから、飼料用米っていう文字も見当たりません、担い手という文字も見当たりません、集落営農など、それらもこの国が示しておる農村基本計画の中の文章の中から見当たらないということも言うておられました。本当に自給率の向上も条文化されていない、基本理念もない、担い手不足をどうするのかビジョンがない、新規農業者対策は一切書き込まれていないいう、こういう中身なんですけど、お読みになりましたで

しょうか。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。議員おっしゃいましたように、先ほど私も、その家族農業の大切さというのを申し上げたところでありますけれども、やはりこれを現実問題として見たときに、非常にやはり今、大規模化であったりとか、省力化というのが進んでいて、そこは非常に難しさがあるんだろうなというふうに感じているところであります。

実際、実態として小規模な農家が、それ1軒1軒がこれまでどおりのやり方でやっていけるのかっていうことになると、本当にやっぱり今おっしゃいましたように、市場もグローバル化していますので、輸出というふうにおっしゃったというのは、米だけではなく、野菜も含めていろいろなそういった世界にも売っていきけるようなものを作っていくというのが一つの考え方だろうなというふうに思っています。

その中で、米というのは、やはり日本の主食ということでもありますので、そこもしっかりとやはり生産をしていただけるような体制というのは考えていく必要があるんだろうなというふうには受け止めています。以上です。

○議長（山路 有君） 江田議員。

○議員（3番 江田 加代君） 何となく共有できました。

そこで、地方創生の担当大臣の最近の発言なんですけれども、25年ぶりに改定された農村基本法の場面ですけど、今後、地域として稼いでいく農業にしていかなといけんいう、こういったことも言うておられます。

先ほど村長も御答弁くださいましたけれども、これまでどおりの農業の進め方では立ち行きはできないってことを皆さん感じられると思うんですけれども、やっぱりそこでは、何ていいますか、生産コストを補填できるような、言ってみればこれ、直接支払制度っていうですか、こういうものがなければ、本当に今、農業やっていけないと思うんですけれども、どうそれについてお考えでしょうか。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。最初の答弁でも申し上げましたように、今現在は米の価格も自由に決められるようなということでありまして、やっぱりこの需要と供給のバランスによって米の価格も、少し前は非常に安かったり、今は高かったりということで、それと翌年度、生産どうしようかというのがそれぞれが考えられて決められる、そのバランスによって、また次の価格が決まってくるということだと思っています。

それ、固定ということには、これはならないなというふうに思っていて、やはり市場価格ということの基本にしながら、これまでもやっぱりやっているように、どうしてもとても難しい状況が来たときには、そのときにはやはり一定の支援等もしながら継続をしていただくようなやり方と併せて、先ほどもありましたスマート農業とか効率化を図っていくというのは、これは考えていけないといけないというふうに思っていますので、そういったところでも村としてもお手伝いをさせていただきながら、農業が次世代につないでいけるようにしていけたらなというふうな思いであります。以上です。

○議長（山路 有君） 江田議員。

○議員（3番 江田 加代君） そうしますと、日吉津村というか、自治体レベルで何ができるのかなっていうふうに思うんですけども、今、持続可能性とかSDGsとかいうことを叫ばれております。そこで、じゃあ日吉津村で何ができるかなって思ったときに、学校給食が地域の食材を取り入れてやるということで、それを取り戻したという地域はたくさん生まれてますし、それから、オーガニックの農産物を使う自治体も増えたとかいう、午前中の質問でありましたので、ぜひこれらは積極的に取り入れていただきたいと思います。

それと、また、消費者として初めて店頭から米が消えたというのをLINEで電話が入ってきました、何人の方から。それで、米が足りない、価格が高くなり過ぎたり、どうしようもないですかとかいうような電話もありました。それでやっぱり生産コストがきちんと補填できるようになってないといけんなというようなことも話しました。

そこで、もう一つ心配なのが種子法です、種。これが今後、どういうふうに農業者に影響してくるのか、村長のお考えを聞かせてください。

○議長（山路 有君） 江田議員、もう少し詳しく。

○議員（3番 江田 加代君） いいですか、もう少し詳しくっていいですか、これは通告要旨に具体的に書いてなかったなっていうような気持ちもあるんですけども、どうせ何か御答弁いただけるだろうという期待はしてありましたけれども、種子法が、私もね、このたび初めて勉強したんですけど、ていいますのが、農家の方が、この頃は花の種まで自由にならんだよって言って教えてくださいました。自分のところで花の種まで取れんだよみたいなことを、て聞いたので、それ以後、少し勉強したんですけども、種子法はいいんですけども、その後の種苗法っていうのも施行されてますか、これも聞きたいですけども、それが農家にとってどうかなっていうことが聞きたかったし、それと主食米は一体この種苗法の法律が施行されることで、主食の米はどうなるのかなっていうことをお聞きしたかったんですけども、やっぱりその辺り明らかにしといてお

いたほうがいいかなって思ってます。

それで、この間、初めて農業委員会の方の会議を傍聴させていただきましたけども、ぼろっと出たのが、農業者は江戸時代と変わらんよっていう声もありました。生かさず殺さずっていう、そんなことまでぼろっと出ましたのでね、やっぱりこれは本当に、この種子法ってというのが、どうやら、何ていいますか、種が自由に自分のところで取って育てるっていうことができなくなるといようなものだそうです。この辺りのことをぜひ問題提起になればそれでいいかなっていう気持ちもあるんですけども、通告してませんでしたから、それでその辺りのことでもしお答え、多少いただければお願いします。

○議長（山路 有君） 江田議員、通告してなくて、もともとのその辺りの答弁資料ないということで、答えられないということです。ちょっと質問内容を変えてお願いしたいと思います。

江田議員。

○議員（3番 江田 加代君） これね、要するにこの種子法について、私、どこが一番農家はどうなりますかっていう辺で、種が自由に作られない、だけれども野菜の種はほとんど輸入ですよね、お米は唯一日本で種が取ってあるそうですけれども、種子法廃止とはほぼ同時に整理した農業競争力強化支援法では、地方自治体などの公的機関は民間企業と対等の条件で競争しなければなりませんと規定されております。地方自治体の種子事業も独立採算制を求められることになるかもしれません。そうなると、中山間地などのために作っていた市場の小さな種は、この競争条件の中では生き残ることができません。種子は地域ごとの土や気候を配慮して、次の世代に伝える役割を持っています。地域の土や気候に合った種子は、農家が自家採取することで生まれ、地域の文化の基盤をつくるものなのです。民間の種子会社や多国籍企業は、地域に合った少量多品種を提供するよりも、広域に適した種類の少ない品種を大量に売ることによって利益を出そうとします。種苗の多様性が減ることは、地域の食文化の衰退を意味します。日本の農業、食文化を支えてきた地方自治体の種子事業と在来種など農家が守ってきた種苗をどう守って次の世代に渡せるのかが問われていますと、こういうので説明されておりました。

私、本当に子や孫のことを考えるんです、この頃。子や孫、孫の時代は特にこの環境問題なんかどうなっているのかなというふうにとっても心配するわけですけども、そういった意味で、この種子法が種苗法に変わったという辺が、恐らく環境問題とか、それから、何ていうですかね、農産物の多様性が崩れたりとかいうことになってくるのではないかという不安があったので、村長にお尋ねしたいと思いました。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。種子法、それから種苗法ということで御披瀝をいただいたところであります。

ちょっともう少し私のほうも勉強して、その辺り、今、取り組めることがあったら取り組めるようにしていきたいなというふうに思います。ありがとうございました。

○議長（山路 有君） 江田議員。

○議員（3番 江田 加代君） ありがとうございました。

いろいろ午前中の同僚議員との、何ていいますか、質問内容が重複してますので、私はこれで終わらせていただきます。またその種苗法については、よろしく願いいたします。

○議長（山路 有君） 以上で江田議員の一般質問を終わります。

○議長（山路 有君） ここで暫時休憩を入れまして、午後2時30分から再開したいと思いますので、20分ほど休憩入れます。

それでは、暫時休憩に入ります。

午後2時08分休憩

午後2時30分再開

○議長（山路 有君） 再開します。

通告順6番、河中博子議員の一般質問を許します。

河中議員。

○議員（7番 河中 博子君） 6番、河中博子です。

一般質問、今日は高齢者問題と行政施策の在り方について伺います。

最初に、高齢者支援についてです。

日吉津村の高齢化率は11月1日現在で28.5%と低いですが、そういう日吉津村にあっても高齢者が孤立するときがあるのではないのでしょうか。例えば、日常生活の中で、朝、御家族が仕事に出かけられた後、日中は1人。あるいは、高齢の御夫婦だけになることが考えられます。そんなとき、家の中で転んで病院に行きたい、何となく調子が悪い、また料理を作るのに足りないものがあるからちょっと買ってきたいなど、ちょっとだけ出かけたと思われるときもあると思います。そういうときに、他人の手を借りずに気軽に外出する手段としてタクシーチケットを助成し、タクシーを利用させていただきたいのです。

現在の制度は、重度心身障害者等社会参加促進事業としてスタートしたもので、支給対象には

3つの条件がありますが、その中の一つに65歳以上74歳以下の高齢者のみの世帯で、世帯全員が運転免許または自家用車を所有していない世帯となっています。つまり、家族がいれば、いかに高齢者といえどもタクシーチケットは出せないという決まりです。それを見直し、あるいは新たな支援事業として、家族がいても、日中は高齢者だけになる世帯にはタクシーチケットを助成していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

暑い、寒いもあります。雨の日、雪の日もあります。自分で自分のことができることは嬉しいことですし、最近言われているフレイル予防にもなるのではないのでしょうか。年間予算として、そう高額にはならないと思いますし、何より足腰弱った高齢者に対して、思いやりの心を示していただきたいと思います。お考えをお聞きます。

もう1点は、以前から申し上げていますが、80歳以降も自費で人間ドックを受けている方に補助金を出していただきたいと思います。

現在、人間ドックに対する補助は、満80歳で打ち切りとなっています。村では、自分の健康は自分で守るとして、村民一人一人の主体的な健康づくりの取組を呼びかけています。健康寿命の延伸という言葉も聞かれます。これはとても大事なことで、健康で長生きする秘訣でもあります。その精神からいたしますと、80歳を過ぎたら補助を打ち切るのではなく、むしろ新しい施策として、自費を使って年に一度人間ドックを受け健康管理を継続している方に対して、基礎額の半額程度を補助してもよいのではないかと思います。

人間ドックは病気の早期発見や早期治療のために全身を対象に行い、検査項目も圧倒的に多いです。一般的な健診とはそこが違います。日吉津村独自の取組として、高齢者に手厚い支援をしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

続いて、項目の2項目めです。最初に、ケーブルテレビひえづ113chの制作担当者を現在の1人体制から2人体制にという申入れです。

村民からもそのような声が上がっていると聞いていますが、一向に2人体制の現場を見たことがありません。この件につきましては、これまでも繰り返し提案してまいりました。その理由の一つは、今のような1人体制では、取材が続いたときには疲労度が高くなり、病気になったときなど、いつもどおりに放送ができなくなること。そのためにも、後継者を一日も早く育てる必要があると思うからです。

また、技術は日進月歩進化しています。時々関わっていませんと、今日、担当者がいないから、あなたやってと言われてもできません。村長は御存じだと思いますが、県西部7町村で日吉津村のように1人で番組をつくっているのは今も日吉津村だけだと思います。しかも担当者が専

任ではなく、デスクワークもしながらという、他には類を見ない体制です。

日吉津村は狭い村だから1人で十分という声をどこかで聞いたような気もしますが、確かに片道1時間かかるような山間部ですと、取材時間より移動時間のほうが長くかかることもあります。これは体制の問題とは異なります。地域が広いところならともかく、狭いところだから1人でいいじゃないかという考えがもしおありでしたら、それはいかがなものでしょうか。

以前、当時の担当課長は、今の担当者が病気等で長期休暇を取った場合は、テロップで文字放送をする、場合によっては外部のプロダクションに委託することも考えるというような回答をされました。もちろんそうでもしなければオンエアはできません。そういうふうには、いざというときには、プロダクション契約が成立してしまえば、その内容をお聞きしたいと思います。

ひえづ113chは御家庭でテレビを通して、居ながらにして、村内のいろいろな情報を得られる大切なツールです。視聴率も高いと私は思っています。行政として、ひえづ113chを今後どう対処、継続していくつもりなのか、考えをお聞きします。

次に、海浜運動公園のリニューアルにつきましては、午前中の回答で改めてしないつもりでございましたけれども、タイムオーバーで不十分でしたので、2点だけ基本的なことをお聞かせください。

まず1点、現在は構想の段階か決定の段階か、もう1点、財源確保はできたのか、この大枠2点についてお聞きします。

最後に、長い間、手つかずでありました日吉津村人材育成基本方針が今年5月にリニューアルという表現が正しいかどうかは分かりませんが、されました。2010年のものと比べて文章が随分とすっきりとして、事務的になったような気がします。これはアドバイザーの方針だったのかどうか、それは分かりませんが、新しい人材育成基本方針を今後どのようにして職員の血となり肉となりスキルアップにつながっていくのか、私は大変興味と期待を持っています。その辺りのことを伺います。

なお、回答によりましては再質問させていただきます。よろしく願いいたします。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 河中議員からの一般質問にお答えをしてみたいと思います。

まず、高齢者に思いやりの支援をというタイトルで御質問をいただいています。大きくは2点ありまして、1点目はタクシーチケット助成の範囲拡大、もう1点が人間ドック助成の、これも範囲拡大ということかと思えます。

まず、1点目のタクシーチケット助成の関係ですけれども、こちらにつきましては、令和5年

度から利用枚数を1回1枚から1回6枚までに拡充をし、利用者の利便性を図ったところであります。これは1枚500円でして、1人当たり年50枚まで交付ができるという仕組みであります。利用実績から見ますと、1回の利用枚数を増やした効果が出ている、あったものと思われるところであります。

議員御指摘のように、やはりこの外出をしていただくというのは健康維持のために非常に大切なことだというふうに考えているところでありまして、日中は交通手段がなくなる高齢の方々の外出の手段についても、これを確保していくことは一つの課題であるというふうに認識をしています。

一方で、バスなど公共交通機関の利用促進、これも課題でありまして、平成30年3月からは、米子市と日吉津村を結ぶ循環線、まいにちループも運行されており、そうしたバスの運行に対しても村からの補助を行っている、こういった実態もございます。ですので、まずはこうしたバスやその他の公共交通機関の御利用というのでも検討をいただきたいというふうに考えています。

また、高齢者の方々が地域で生き生きと暮らせるように、地域の支え合いの体制をつくっていくということも大切だと思っています。住民主体のサービスの仕組みづくりの検討も進めていきたいというふうに考えています。

次に、人間ドックの補助の関係ですけれども、国からの人間ドックへの特別調整交付金が平成30年度から令和3年度までに段階的に廃止になったことに伴い、鳥取県下で後期高齢者を対象とした人間ドックを実施しているのは、本村と、あと3町のみということであります。その中でも本村におきましては、県下で最も手厚く実施をしているのではないかとこのように見ているところであります。

以前もお答えしたかと思いますが、集団健診時に健康診査とがん検診を組み合わせ受診していただくことで、人間ドックより低い自己負担額で、人間ドックとおおむね同じ検査項目を検査していただくことができますので、こちらを活用していただきますようお願いを申し上げます。

次に、ひえづ113chの制作体制についての御質問であります。

このひえづ113chは、議会中継や村の行事、話題等をお伝えする村の重要な広報媒体でありますとともに、地域コミュニティの活性化にも寄与するという大切な役割も果たしているものと考えています。その制作体制については、現在担当する職員と併せ、他の職員も操作対応ができるよう研修を行っているところであります。引き続き、いざというときのバックアップ体制を構築し、今後も113ch事業を継続していくことができるよう検討してまいりたいと思います。

次に、海浜運動公園のリニューアルの現状で、2点ということでありまして、1点目が、現在の段階は構想か決定かということでもあります。

現在の状況としては、この海浜運動公園再整備の基本計画というのを策定が済んだということでもあります。これが基本的な考え方となっていまして、今後、実際にはそれをベースに整備方針でありますとか基本計画……。ちょっと待ってくださいね。今後公募に向けた準備を進めていくということになりますけれども、実際には、こちらからの公募の要件に対して民間事業者からの提案を受け、その公募の内容も踏まえたところで、それが実際の整備につながっていくというふうに考えておりますので、現在の基本計画につきましては、そういった骨子の部分になるのかなというふうに受け止めているところであります。

あわせて、財源確保の関係でありますけれども、こちらにつきましては国の交付金を活用できるように、今準備を進めかけているところであります。年末から年明けにかけて、この募集が始まってくるのが例年のサイクルでございますので、そこに向けて準備を進めていきたいというふうに考えています。

最後に、人材育成基本方針の活用状況についての御質問でございます。

本村では、今年5月に日吉津村人材育成基本方針を改定し、人材育成の基本理念、果たすべき役割と必要な能力等、求められる職員像を掲げ、一人一人の職員の資質向上、職員の人材育成を図り、組織全体のレベルアップを目指しているところであります。取組内容といたしましては、人事評価制度や研修による職員の能力開発、職員の働く環境の整備、人材の確保等を行っていくことを定めているところであります。本村では全職員を対象に、毎年、能力評価、業績評価を実施し、職員のやりがい、モチベーションアップにつなげ、人材育成、面談等により職員の能力開発や組織のパフォーマンス向上に努めているところであります。現在、この改定した基本方針を基に、人事評価の内容や方法についてバージョンアップを図っているところであります。

人材の確保に向けましては、職員採用試験の受験申請手続のデジタル化など、多様な受験方法への工夫や専門的な知識、経験を有する外部人材の活用に取り組んでいるところであります。また、デジタル時代の住民ニーズに合った行政サービスの提供や情報セキュリティー、デジタルリテラシーなど、現代の課題解決に向けた研修も計画をしているところであります。

この基本方針の策定に当たりましては、そのプロセスの段階から職員が参加をして、このあるべき姿、求められる職員像等について議論を重ねて進めてきたものであります。あわせて、この人事評価制度にも反映ができるようにということで議論を重ねてきているところでもありますので、ぜひこの基本方針を生かして、今後も職員の人材育成につなげていきたいというふうに考え

ております。

以上で河中議員からの一般質問への答弁とさせていただきます。

○議長（山路 有君） それでは、再質問を許します。

河中議員。

○議員（7番 河中 博子君） 再質問といえますか、主に答弁に対する感想を述べさせていただきます。

まず、タクシーチケットについてです。

村長はお年寄りの方が腰を曲げて買物をしたり病院に行ったりしていらっしゃる姿を御覧になったことがありますか。以前、私のうちに来られて、タクシーチケットはもらえないですかねと言われた方がありました。心苦しかったです。御家族がいらっしゃったら出ないんですよと伝えました。夏の暑い日、小さなキャリーケースに買物を詰めて、日傘を差して歩いていらっしゃる姿を見るたびに、私はこのタクシーチケットのことを思い出していました。

最近ですけれども、あるとき村民の方から、日中は高齢者1人になる方にタクシーチケットを出してもらえないものでしょうかねと相談を受け、ほかでもいろいろ話すうちに、運転免許証を返さないといけないだけけれども、やっぱり病院とか買物に行くには車が必要で、この先、どうしたものかと考えているという方もおられましたので、この要求を続けています。

現在の初乗り料金は740円、これは1.5キロです。その後は300メートルごとに90円ずつ上がっていきます。乗車する場所にもよりますが、イオンまで買物に行こうとしたら、この初乗り料金で行けるのはほんのごく僅かな地域のみです。下手すると買物の料金よりもタクシー代のほうが高くなる場合もありますが、それでも必要に迫られて出かけなければならないときもあるわけです。病院通いなど、往復タクシーを使うと結構な金額になります。暑い、寒い、雨、雪など、外出しにくい天候もあります。村長はバスとか公共交通をとられましたけれども、確かにそれはいいです。上2の方で家の前がバス停なので、イオンまではそのバスを使っているとおっしゃる方あります。そういう方は本当にいいと思うんですが、バス停まで行くのに1.5キロ以上歩かないといけないような方は、歩いて行きません。高齢者に安全な移動の手段としてタクシーチケットを助成していただきたいと思いますので、改めて斬り捨て御免ではなく、前向きに考えていただきたいと思います。先ほどおっしゃいましたけど、昔は500円が1回でしたが、今は3,000円まで使えます。本当に出かけるのに、この制度はすごく便利でありがたい制度ですから、もう一度改めて考えていただきたいと思います。

今回もですが、前回もそうです、重度心身障害者等社会参加促進事業ということで3つの条件

を述べられました。本当に十分にそういうこと、そういう条件があることは承知した上で申し上げていますが、この先、一歩たりとも譲らないというのではなく、新たな一歩前進した取組として、ぜひとも考えていただきたいと思います。

次に、人間ドックです。

2年前と同じ回答ですね。村が実施している健診とがん検診を受けていれば、安いコストで人間ドックとほぼ同じ検査ができる。確かにそういうことはあるかもしれませんが、健診と人間ドックは基本的に全く違います。あのおとき私は村長に、少ない助成ですけれども、健康に気をつけて長生きしてくださいね、そういうような言葉がかけられませんかと言いました。今でもその気持ちに変わりはありません。助成がなくなったら80歳で人間ドックをやめるという人は当然多いです。しかし、年を取るとともにますます必要になる命と直結した健康管理ですので、引き続きドックを受けていただきたいと私は思っています。今のままですと、何ですか、80歳の声を聞いた途端、はい、これまでと引導を渡されたみたいでとても悲しいです。

人間ドックのネックは料金が高いことです。健康保険の適用がありませんので、自費で受診しなければなりません。国に対して高齢者支援に向けて施策を考え直してほしいという働きかけも必要ですけれども、まず村独自の事業として、住民福祉と思い優しい心で取り組んでいただきたいと思います。

次に、ひえづ113chにつきましては、先ほども申しましたけれども、これはもう行政の考え方一つだと思います。研修をしていっしょに、そういうことができるように、今、研修を始めてるとおっしゃいましたから、すごくいいことだと思いますね。もしですけれども、職員の数に余裕がないのであれば、その道のキャリアのある人をアルバイトで入っていただいて、担当者の仕事を減らしながら、一方で番組のつくり方、映像の撮り方などを意見交換しながら、よりよい番組を楽しくつくり上げていく、そういうことも不可能ではありません。ただし、これはイベントなど特別な場合で、恒常的にアルバイトを使ってということにはならないと思います。

幸いこれまで担当者は長期休暇も取らず、暑さ寒さにも1人で対応し、放送を続けておられます。それを当たり前と思わないで、こういうことは特別視するわけではありませんけれども、特殊部門の仕事だと私は考えております。ですから、他町は全部プロダクションに頼んで、年間何千万というお金を払っているのです。それを日吉津村は職員の業務としてやっているわけですから、そういう意味でも、この形でずっとやっていくのであれば、次なる人を育てていく必要はあると思います。

それと海浜運動公園は、構想か決定かということでは、基本方針が今決まったところで、これ

からだということですので、どちらかという、今まだ構想の段階ということですね。それから、財源のほうも、これからですから、財源が取れなかったらどうなるんですか、これを1つ伺います。

○議長（山路 有君） 村長、順次上から、1項目分けじゃないんで、全部ですので、よろしくお願いします。

○村長（中田 達彦君） 取れなかったらだけじゃない。

○議員（7番 河中 博子君） いいですよ、いいです、じゃあ全部行きましょう。

○議長（山路 有君） はい。

○議員（7番 河中 博子君） 全部行きます。最後に、人材育成方針に、人材育成は退職まで続きますとあります。もう全くそのとおりで、私のような高齢者にとりましては、生涯学習、つまり一生勉強が必要だと同じことだと思っています。努力は、そのときは見えなくても、いつか先で必ず実を結ぶというのが私の考え方でして、日吉津村役場が変わったと、村民みんなで確信できる日を期待したいと思っています。

この人材育成で2点お尋ねします。

まず、1点、村職員として求められる役割と必要な能力、行動要件として作成されました折り畳みの表ですけれども、その中で村民（対外）との関わり方として、管理職、課長補佐、係長に関しては、1、村民の相談事や要望などを適切に酌み取るため相手の話を傾聴する、つまり耳を傾けると書いてあります。一方で、主査、主事に関しては、頭の部分は同じですけれども、相手の話を聞き、相手が納得するよう適切に対応するとなっています。傾聴するは敬語ですけれども、聞くは敬語としての意味は含まれていないように私は思いますが、この辺りの表現は意識して書かれたのでしょうか。

もう1点、先ほども村長おっしゃいましたけれども、外部人材の活用ということが結構書いてありますね。人材確保の中で多用な受験方式とか外部人材活用、デジタル人材とかあります。2番目の外部人材の活用の中に、ちょっと私はこれ、読み取れませんけれども、新たに専門的な人材を採用することは通常業務を行う上での実質人員削減につながることとなり、これは分かるんです、事務に係る職員の負担が大きくなっていきます、この辺のちょっと言葉の意味が、何のために外部人材を採用されるのか、活用されるのかが分かりませんでしたので、2点お伺いします。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。まず、タクシーチケットの関係ですけれども、こちらについて以前も御質問いただいて、役場の中でも検討をしたところであります。結局対象者が

ほとんどがお勤めの方が多いという中においては、ほとんど全ての方が対象になるのではないかと
というような意見もありまして、その中でこういったところまで対象にしていくかというのが非
常に難しいなというところがございます。

議員おっしゃいましたように、本当に非常に出るのもつらくてという方に対しては、ぜひとも
支援を対象にしてあげたいというような気持ちも持っているところでもありますので、もう少しこ
れ、検討してみたいと思いますけども、現状としてはそういった難しさもあるなというところで
御理解をいただけたらというふうに思います。

人間ドックの関係につきましては、これは以前も答弁をさせていただきましたように、この健
康診査とがん検診の組合せでお願いをしたいというふうに思っています。町によっては偶数年齢
の方を対象に、年齢の上限はなしでやっているというところもあるというふうに聞いてい
ますので、もしかしたら、そういうほうがいいのかもかもしれませんし、分かりません。そこはど
ういったやり方をするのが実際にいいのかというのを、引き続き考えていきたいなというふう
に思います。

次に、海浜運動公園の関係で、財源につきましては、現在想定していますのは、国の地方創生
の拠点整備の交付金、あるいは、都市公園ということになりますので、国交省の管轄になります
社会資本整備総合交付金というやつ、その公園の改修の部分というふうになります。その辺り
をいかに組み合わせて使っていいのかということで検討をしています。ぜひこれ、取れるよう
にということで向かっていきたいなというふうに思っているところでもあります。

最後に、人材育成の基本方針につきましてですけれども、改めて今、御指摘を受けまして、そ
の「聞き」というのと「傾聴」という言葉が分けて使ってあるなということでありまして、傾聴
っていいますと、特によく相手の話をまずは聞いてということかなというふうに思っていますけ
れども、これ、その職に関係なく、傾聴をして、しっかりと歩み寄っていくというのが基本だ
と思っておりますので、あそこはまた改定の機会がありましたら、ここはまたよく考えていくべき
ところかなというふうに思います。

それから、最後に、この実質人員削減につながるということは、つまり専門的な人材を配置す
ることで、要は人員の定数の枠が、1つそこに割り当てるということになってくると、既存の業
務がどこかに振り分けなくてはならないのではないかと危惧だというふうに読んでい
るところであります。そういったところで、現在やっていますようなアドバイザーですとか、よ
うなところも活用しながら、今進めているところでもあります。以上でございます。

○議長（山路 有君） それでは、再質問を許します。

河中議員。

○議員（7番 河中 博子君） タクシーチケットの件です。

家族がいると対象者がすごく多くなって大変難しい、でも、65歳以上の方という、65歳から74歳という、その枠は変わらないわけですから、そんなに一気に多くなるのかどうか、とは私は思えないんですけれども、誰でも高齢者っていうか、65歳以上74歳の中でというふうに考えていただきたいし、もう一度考えてみますということですので、期待して、その辺はお願いしたいと思います。

それから、人間ドックの偶数年、前回も他町のことを参考にして言われましたけれども、何とか、本当にこれもそんなに多い人数の方じゃないんですけれども、やっぱりたとえ人数が少なくても、そういう方には手を差し伸べてあげたいなというふうに思います。

それから、海浜運動公園の財源、これから向かっていくって言われましたけど、先ほどお聞きしましたけど、これが取れないときには駄目になるわけじゃないですよ。何としてでも取っていくということは、何年先になるか分かりませんということですか、端的に聞きますと。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。これは地方創生の拠点整備交付金なんかは2分の1ということですので、これ、非常に大きな部分を占めるわけでありまして、ぜひともこれに向かっていきたいなというふうに思っています、これが取れないということになると、これ全部自主財源、一般財源で賄うということになると、少しそこは難しさが出てくるのかなというふうに思っています。以上です。

○議長（山路 有君） 河中議員。

○議員（7番 河中 博子君） 最後にもう一つです。先ほどの文章の中の傾聴するっていうのを、今、聞くというのと二手に分かれてて、また今後、ちょっと変えていくようなことを言われましたけれども、別に変えられなくてもいいのかもしれませんが、いや、私感じますのは、この人材育成っていうのは本当に大事なことで、やっぱり職員の方、職員に限らず、どこの職場でもですけど、謙虚さっていうのは本当に大事なことだと思うんですよ。ですから、この文書を読んで傾聴するって書いてありましたから、ああ、いい言葉が使ってあるなと思ったんですが、その下のほうに行ったら、聞いて、適応しながら対応させて書いてあったので、これは同じようなレベルで人材育成の研修をしていかれたらいいのになと思ったものですから、あえて伺いました。せっかくいいものができてるわけですから、そういうふうに、さっきも言いましたが、三顧の礼までは言いませんけれども、やっぱり職員というのは、特に公務員というのは余計そうなんで

しょうけども、謙虚さっていうのは大事じゃないかなと思って、そういうことがこの基本方針の中に入れていけばいいなと思ったものですから、あえて申し上げました。

私も高齢者です。もう全く自覚のないまま立派に後期高齢者の仲間入りをしまして、命と健康が気になる日々を送っています。健康で社会に役立ちながら長生きするためには、まず自分のことは自分で処理できる体力をつけなければいけないと思って年を取ってますけども、約1時間のウォーキングはずっと続けています。つい先日も筋力が衰えたなと思ったものですから、自転車で足に筋力をつけようと思って自転車で飛び出しましたところ、あっと声を上げる間もなく転倒してしまいまして、手首の骨折と、それから左の肩、腰、足全部強打した打撲痛とで今も病院に通っているありさまです。運動神経にはそれなりに自信があったつもりでしたけれども、体はうそをつかないなと思って、本当に改めて自覚しているところです。まかり間違えば寝たきりになりかねない出来事でしたので、高齢者であることを思い知らされました。もちろん転ばず、けがせずでお元気な高齢者の方が圧倒的多数だと思いますけど、気をつけないといけません。そういう意味で、無理をして出かけるのではなく、暑い、寒い、雨、雪、風が強い、そういうときには本当に手助けとしてタクシーを使わせてあげたいなと改めて思います。健康であることの大切さを、本当に自分がけがをしたことによって改めて思いました。高齢者問題は明日は我が身です、他人事ではありません。思いやりの村、日吉津村と呼んでいただけるような、そういう施策をお願いいたしまして、一般質問を終わります。

○議長（山路 有君） 以上で河中議員の一般質問を終わります。

○議長（山路 有君） 橋井満義議員の一般質問を許します。

橋井議員。

○議員（8番 橋井 満義君） 通告7番、議席番号8番、橋井でございます。皆様、よろしくお願いをいたします。本日の一般質問で私が一番最後となりました。しばらくお付き合いください。よろしくお願いをいたします。

まず、皆様、お手元に配付のとおり、一般質問の通告表に基づき、本日の質疑をさせていただきます。順を追って質問をさせていただきますので、よろしくお願いをいたします。

本日は、大きく質問事項は3点について行うものであります。まず1点目、これはテレビなりケーブルテレビではテロップで出ておると思いますが、まず1点目、旧うなばら荘の進捗状況は、2つ目、教育委員会の所管であります、ふるさと読本はどうなっているか、それから3点目、現在の村有地の利活用はどのようになっているのか、まずこの3点について質問をしていきたいと

思います。本日は、通告では80分としておりますが、早く終わればその時間で御容赦をいただきたいと思っております。

まず1点目、旧うなばら荘における建物所有者との関係についてであります。

先頃、議会では議会懇談会で様々な村内の地域を回らせていただいたところであります。その中でもたくさんの御意見を拝聴いたしました。その1点であります、やはりこのうなばら荘の問題をたくさんの方から意見を承りました。そして現状を確認しに参ったところ、以前と何ら進展が見られない状況でありました。これで一体どうなっているのかという質疑をたくさん受ける次第であります。そして、以下のとおりの点について答弁を求めていきたいと思っております。

まず、大きなうなばら荘の1点目、これを現在取得して、建物の所有者でありますヤードクリエイション社が来年まで事業延長の申出をされております。これについては、ヤードクリエイションが事業の延長をということで、本年、2024年の3月5日の日本海新聞がこれでありますが、これにはっきりと企業が延長を申し出、旧うなばら荘事業開始延期という記事で記載をされております。また、詳細については、後で述べたいと思います。

まず、これについて、事業延長の申出をされましたが、その後の進展が伺えませんので、どうなっているのか、答弁を求めたいと思います。

次、2点目、このうなばら荘の敷地はあくまでも日吉津村の所有であります。これらの土地についての賃貸料は一体どうなっているのか、また、その額面は幾らなのか、御報告願いたいと思います。

次、3点目、当物件の建物及びそれらに対する固定資産税額は、資産額として幾らなのか、御提示いただきたいと思います。

次、4点目、このうなばら荘には泉源が2か所あるわけでありますが、1つはうなばら荘外であります。しかしながら、当該建物に付随した泉源は50年間無償で貸与するということがヤード社との間で締結をされております。このうなばら荘の泉源は、皆様御承知のとおり、塩泉で冷泉であります。塩が回るという温泉特有の状況から考えても、これらの給湯設備等の状況のメンテナンス等は一体どうなっておるのか、そして、その現状をどう認識されておられるのか、お答えをいただきたいと思います。

次、5番目、当方弁護士と申しますのは、相手方ヤードクリエイション社の弁護士、そして当方の弁護士、これは西部町村会での共通しておる弁護士さんだったと思っております、それはまあいいです。何でも、当方の弁護士としておきます。その弁護士はこのことについて、法的対応についてどのようにお考えをされてるのか、はっきりとお答えをいただきたいと思います。

6点目、その他、西部広域との関係や村民に対する報告等について伺いたいと思いますが、西部広域と日吉津村、それから当事者のヤード社と、3者でこれからの行方についてはお互いに協調して前向きにやっていくんだよということを承っておりますが、西部広域との関係については、私はもう既に契約等の中でもう無関係だというふうに私は認識をしておる立場上、これらについて、西部広域の云々ということは今さらもうナンセンスな話だと思っておりますので、一度その辺りを確認をしておきたいなというふうに思います。

これらがまず、うなばら荘における質問であります。

それから、次の大きな2点目、ふるさと読本であります。

これについては、教育委員会所管で、特に小学生向きで約30ページということで提示をされておりましたので、本をまとめて子供たちの情操教育に寄与するというで承っております。これについては、本年の9月定例会で債務負担行為で令和7年度までの増額補正をされております。これらについての進捗状況をいま一度確認をしておきたいと思っております。現状がどうかであるのか云々を、詳細までではいいので、簡潔にお答えをいただきたいと思っております。

次、3点目、長くなりますが、村所有地の利用状況について、下記の地番の現状と今後の利活用についてどう考えるのか、説明を求めていきたいと思っております。

ちょっと今、手元に置いとりませんので、これらの地番については、担当課は既に御存じだと思いますが、まず、今吉240-1、232-3番地、これについてはうなばら荘南側の小学校の田んぼということで、稲を植えて収穫作業をされておるところであります。

それから、次、今吉188-1、これはその東側に隣接したところではありますが、アルミのフェンスで周囲を囲ってあって、第三者の侵入ができないようにフェンスで囲ってあるところがあります。これらについては、自治会等で出た残土及び側溝のしゅんせつ土等の処分地としての置場になっております。

それから今吉83-1、これはうなばら線の、海浜公園からうなばらに約100メートルないし200メートル寄ったところの南側の沿線の小さな土地であります。これについては、キノコ菌床等の堆肥の試験場として利用をされておるように伺っております。

それから日吉津2323番地、これは海川排水路の海川新田集落の北側約100メートルぐらいの位置に位置しておる村民農園の土地であります。

それから、その若干南側の隣接地にあります日吉津2327番地、これは保育所の芋農園として利用されております。

まず、これらについての現状の利活用と、これから将来的にどのようにお考えなのかを明確に

していただきたいと思います。

各答弁については、簡潔、明瞭にこの質問の趣旨に従って御答弁いただきたいと思います。以上であります。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 橋井議員からの一般質問にお答えをしてみたいと思います。大きく3点御質問でした。1点目が旧うなばら荘における建物所有者との関係についてということ、2点目がふるさと読本の現在の進捗状況、3点目が村有地の利用状況ということでございます。ふるさと読本の関係につきましては、後ほど教育長のほうから答弁をさせていただきます。

まず、旧うなばら荘の関係でございます。これは先ほど議員のほうからもありましたけれども、現在、所有はヤードクリエイション社という民間の事業者が建物の所有者というふうになっております。この事業計画等に基づく使用開始期間、要は事業者がいつまでにこの事業をスタートするかという期間が、当初、定めがありまして、これが令和6年の5月13日までということになっておりましたけれども、これはあらかじめ書面による日吉津村の承認を受ければ、1年間を超えない範囲で延長できることとなっております。今年の2月にこの事業者から事業用定期借地権設定契約の事業開始期間延長申請が提出をされました。その申請を受理し、弁護士等とも相談をして検討した結果、令和7年の5月13日まで、この期間を延長を承認をしたところであります。その上で、現在、その建物について、第三者譲渡を日吉津村と西部広域も一緒になって、事業者と次の活用に向けて譲渡をしていこうということで、引き続き物件の情報提供やPR、また、問合せのあった事業者に対して、関係する三者で情報共有を図りながら、内覧等の対応や物件の説明、資料提供などを行っているところであります。

今後も事業者と西部広域行政管理組合と協力をして、次の第三者譲渡が達成できるように全力を尽くしてみたいというふうに考えています。

次に、土地の賃料についてでございますけれども、事業開始前の期間中は正規賃料の10分の1の額ということが決められております。これは、先ほど申しました期間延長を行っておりますので、現在も事業開始前の期間中であることから、10分の1の金額であります月額3万5,400円という金額をお支払いをいただいております。

次に、建物の固定資産税の関係でありますけれども、こちらについては令和5年度から発生をしており、令和5年分、それから令和6年分、それぞれ納付を期限内にいただいているところであります。具体的な金額につきましては、個人の資産であり、個人情報に該当するため、控えさせていただきます。よろしくお願いいたします。

次に、泉源の設備の状況でありますけれども、これ2年以上使用がされていないということになりますので、破損や不具合が起こっている可能性というのも考えられるところでもあります。現在の契約上、この維持管理は事業者、建物所有者である事業者が行うこととなっております。譲渡先が決まった際には、この事業者と譲渡先の企業が破損修理等の条件面を十分詰めていく必要があるというふうに考えています。

次に、当方の弁護士は法的対応をどのように考えているかということでもありますけれども、村のほうで委託しておる弁護士につきましては、村と西部広域、それから事業者の3者が集まって協議している3者協議には同席をいただいているところでもあります。密な情報共有を行っておりますほか、今後の進め方や予想される展開等に対する方策等についても、法律に基づいたアドバイスをいただいているところでもあります。また、必要に応じ、先方事業者の弁護士とも随時やり取りをしていただいているところでもあります。

村といたしましても、様々な状況に対応できるよう、今後とも委託している弁護士と協議しながら進めてまいりたいというふうに考えています。

最後に、そのほか、西部広域との関係、村民の皆様への御報告についての御質問であります。

西部広域行政管理組合との連携につきましては、令和6年5月15日に旧老人休養ホームうなばら荘候補者選定事務の協力に関する合意書というのを締結いたしまして、第三者譲渡の達成に向けて協力体制を築いているところでもあります。それに基づいて、今、三者協議ということで、頻繁に打合せを行っているというのが現状でございます。

村民の皆様への御説明、御報告等につきましては、具体的な事業者でありますとか内容等につきましてお知らせできる状況となれば、速やかに行いたいというふうに考えています。

次に、3番目の質問に飛びますけれども、村有地の利活用の状況、今後の利活用をどう考えるかという御質問でありまして、こちらにつきましては、先ほど議員からも現状につきましては御説明がありましたので、ほぼ同じような答弁になるかなというふうに思いますけれども、今吉の240-1と232-3につきましては、小学校の水稲栽培に活用しているところではありますが、今年度はブロックローテーションの関係で、水稲の作付ができないエリアになっておりますため、農事組合法人ひえづに貸付けを行っているところでもあります。来年度は小学校の水稲栽培に活用する予定であります。

次に、今吉188-1につきましては、川ざらえの土砂の一時仮置場として活用して、引き続き利用をしているところでもあります。

今吉83-1につきましては、平成30年度から令和2年度まで、村内で排出される廃菌床を

原料とした肥料の有用性を実証するための試験圃場として利用しておりましたが、現在は未活用となっています。

次に、日吉津2323につきましては、特定農地貸付法に基づく村民農園として活用しており、現在、18区画のうち16区画を貸付けを行っている状況でございます。

最後に、日吉津2327につきましては、ひえづこども園のサツマイモ栽培に活用しているところであります。

今後の利活用につきましては、現状と同様に引き続き活用していきたいというふうに考えておりますが、今吉83-1の廃菌床の試験圃場につきましては、形状が不整形のため、周辺農地と一体的に農地としての利用やそのほか有効に活用する手法を検討してまいりたいというふうに考えております。

以上、答弁といたしまして、ふるさと読本の関係につきましては、教育長のほうから答弁を差し上げたいと思います。

以上で橋井議員からの一般質問への答弁とさせていただきます。

○議長（山路 有君） 井田教育長。

○教育長（井田 博之君） それでは、橋井議員からの御質問にお答えしてまいります。ふるさと読本、9月の定例会で補正をお認めいただいたところでございますが、この進捗状況についてお答え申し上げます。

まず、目的からですが、日吉津村ふるさと読本（仮称）でございますが、その目的と内容につきましては、子供たちがふるさと日吉津について学びながら、村の将来を考え、大人も日吉津村のよさを再発見できる、そのような内容にしてまいりたいと考えております。全編を通したテーマとして、過去と現在の様子を記して、村の将来について読み手に投げかけると、そういうような構成にしたいと考えております。

なお、この後は制作委員会の開催状況、それからプロポーザルの実施状況、さらには今後の取組のスケジュールという3点について申し上げます。

まず、制作委員会の開催状況ですが、今年の3月16日に1回目を行いました。その後、4月と6月に続けて3回まで開催をいたしまして、内容として、ふるさと読本の制作の趣旨、それから紙面構成、スケジュール、さらには小学校社会科の学習内容との関係、紙面構成、項目を決定すること、紙面全体を貫くテーマを設定すること、6月には過去と現在の村の様子を基に掲載内容の細かいテーマまでちょっと協議をしてまいりました。ここまで、3回までで申し上げました項目っていいものは、例えば地理、自然、農業、水産業、商工業、歴史、公民、交流というふ

うな項目で30数ページを構成していこうということでございます。それから、各項目について掲載内容の協議でございますが、例えば農業という項目においては、過去の状況を土地を整備して水稲が栽培できるようになったこと、綿の栽培をしたこと、養蚕が盛んだった頃、それからチューリップの栽培、そのような過去の出来事、事柄を載せまして、それに対して、現在は米作り農家の1年として水稲栽培の様子、それからチューリップ栽培の現在、ブロッコリー、白ネギ、大豆の栽培、村の農業に携わる方々の思いというようなことを現在の様子として、また記していきます。この過去と現在を見て、未来はこうあってほしいなというふうな願いを想起できるような形にして使っていただけるようにしたいと考えております。

なお、9月定例会での補正予算をお認めいただいたことから、10月に第4回の制作委員会を行いました。ここでは、先ほど言いました項目や過去、現在の内容について最終的に決定をしました。さらには、事業者選定方法について協議をしまして、これは価格のみによる競争ではなくて、提案内容を評価するプロポーザル方式によって事業候補者を特定することが必要というふうなことをこの制作委員会で確認したところでございます。

そこで、2点目のプロポーザルの実施についてであります。業務目的を日吉津村教育委員会が発行する日吉津小学校の社会科及びふるさとキャリア教育で使用するためのふるさと読本（仮称）の制作に当たって、デザイン専門知識等々あり、DPT機器を熟知した専門業者の技術も活用することで、より効率的に興味を引く紙面作りを行うほか、児童の学習活動に必要な情報を限られた紙面により多く、より効果的に配置することで、分かりやすい紙面作りを目指すという業務目的を掲げて提案を受けました。予算額は補正で示していただいたとおりでございまして、それに、今年の10月28日から告示を始めまして、11月18日に最終的に企画提案者の選定について通知したところでございます。

なお、選定委員の構成を役場、教育長、総務課長、教育次長、小学校長、教育委員会、事務担当で選定委員として構成しました。審査基準もはっきりと示しまして、選定の結果、基準を大幅にクリアした今井印刷株式会社を受注候補者として選定したところでございます。11月中に契約を締結する予定でございましたが、これ業者のほうの特別な事情があって、個人的なことの事情なんですけども、ちょっと延びておりまして、今週末まで来週初めには契約を締結できるというふうに考えております。

なお、その後、最近の課長会で役場全体を挙げて原稿を執筆していくということの確認を行ったところでございます。

最後、3点目の今後のスケジュールでございますが、契約後、12月に第5回の制作委員会を

開催して、制作委員会が業者と顔合わせをしまして、スケジュールや内容についてのこちらの考え方をはっきりと伝えるというふうに考えておるところでございます。12月中に内容やページ割等を確定しまして、1月以降に原稿作成、原稿作成をして初稿、構成は最終的には6月27日に構成、再構成の一括を提出しまして、最終、9月終わりで原稿、構成等々が終了、10月31日に納品という最終スケジュールとしておるところでございます。

このような進捗状況となっております、最初の目的に合致するような内容の読本となるよう、鋭意努力してまいりたいと考えております。

以上で橋井議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（山路 有君） それでは、再質問を許します。

橋井議員。

○議員（8番 橋井 満義君） まず、それでも順番を追っていかないといけないなと思いますので、まず、うなばら問題から片づけていきたほうがよろしいかなと思ってます。

まず、なぜこの質問を毎回毎回しておるのかなということではありますが、これについて、やはりどこに行きてもこのうなばら荘の状況についてどうなっているのという、本当に単純で懐疑な質問を賜るところであるもので、こうやっていつも行っておるものであります。本年も6月の定例会に同様の質問をさせていただきました。9月は行っておりませんが、全然全く進展が行っておらないもので、やはり何度もこうやってやってるということでございます。

それで、最初の1番目からいっておきたいなと思いますが、ヤード社が来年まで事業の延長の申出をされたというのは、やはり新聞でもこれ出ておまして、令和6年3月5日火曜日の新聞であります、企業が延長を申し出、旧うなばら事業開始延期、ヤードから期限延長の申出があったということで、この建物をここで、この中で特徴的なというよりも、やはりここは特定をきちっとして押さえておかななくちゃいけないのは、要するに事業中止を申出をされて、事業譲渡先が難航をしておる、これはずっと、今始まったことではありません。同社と村の契約は2年以内の事業開始が定められ、開始できず契約解除となれば、同社が数億円かけて建物を解体し、更地返還しなければならない。ただ、ここからです、村が承認すれば、期限を1年以内で延長できるということで、この段階で本年の2月21日付で同社から村の弁護士に期限延長と月額賃料据置き申請が送られたということが現実の問題となっております。そして、この送られてきたこの期限延長を本年の5月、先ほど村長も答弁でありました令和6年5月13日に1年間ということ、来年の7月、7年の5月13日まで期間の延長があるということが、ここは事実として確認ができる。ということは、私は何を心配しておるのかというと、もう12月ですから、あと、

5月の13日に終わりますから、もろもろの事業をやっても、5か月もないわけです、3か月、4か月の間に始末をしてもらわないと、これは大変なことになっていく。その場で、また延長するのかやということをおしはしたくないもんですから、このことを申し上げておるんです。前回の6月の今年の段階でも、期間延長のことについて、私もさんざん苦言を申させていただいた一人です。ですので、さらに、これを次年度まで、また同じようなことがあった場合に、村長の気持ちをここで私は確認をしておきたいのは、また、もう1年間延長する気でもおられるんですかということをおしをちょっとここで押さえておきたい。その点、お答え願います。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。御心配のことだというふうにお聞きをしております。今度の来年の5月13日までが期限ということでありまして、この再延長ということにならないように、現在、次の事業者を一生懸命探しているところでありますので、ぜひとも第三者に事業開始をしていただけるように、まずはこの譲渡が成就できるということに向けてしっかりと現在取り組んでいるところでございます。以上です。

○議長（山路 有君） 橋井議員。

○議員（8番 橋井 満義君） 誠にだろろう運転に近い推量の答弁でありますね。そういうことではもう済まなくて、これは村民の財産と利益に基づくことに対する相当な負債案件なんです。それを私はもう心配、心配を私がしたって、おまえ一人が何もできないくせに何を言ってんだということになるかも分かりませんが、これはやはり村民の共有認識として、私はここで持っていたことが私の務めであるということをおしは考えておるので、このように申し上げてるだけです。ですので、今のお話を伺って、なかなかここで見解が出る出ないということはいいんですけども、今の状況として確認できたのは、次の引取り手が出てくるように努力をしてまいりたいということしかもう言えないということが分かりましたので、もう次は、それができないの段階のときには再度、また考えていくしかないなということで、この件についてはもう終わっていきたいと思います。その場で、また対応は私も考えさせていただきたいと思っております。

それから、土地の賃貸料はどうなったかということについては、これは契約というか、ヤード社との間で10分の1までとしておるということであって、月額3万5,400円ということは皆さんも頭の念頭の中で刻んでおいていただきたいと思っております。月額3万5,400円ですから、年間でこれの1.2倍ということになりますから、40何ぼでしたか、42万円だか何ぼぐらいじゃなかったですかね、ぐらいしか入ってこないということになるわけでありまして。

それから、目に見えないところでは、今まではこの使用料の下水道代が入っておったんです

が、下水道代も入りませんということであります。

固定資産の評価額なり資産税額については、これは個人的なこともあるので、私もここは深く追及しないほうがいいなと思います。これについては、固定資産の部分についてはヤード社の固定資産の額がそのものということであるように承りました。

それから、泉源の話ですけれども、これ50年間無償貸与でこのようなことをしてしまってますので、私ははっきり申し上げて、あれもう大反対をしたんですけども、温泉をただで使わせるなんてとんでもない話で、それで多分、もうこの状態でいけば、この泉源は塩泉ですから、あの管はもう多分、私、もう腐食して、あの温泉使えないと思ってんですよ。せっかくのものでありながら、こんなものをペアにしてしまって、本当先祖伝来といいましょうか、過去の先人の先輩方に対して大変、私、申し訳ない気持ちでいっぱいあるんであります。当時、これは地方創生の、竹下総裁のときの1億創生で5,000万で温泉を掘りました。それで、1本では駄目なので、出なかった、熱いのが。それで、もう1本掘って、でも、出なかったら、ここでみんな我慢してやめようぜということの申合せの上で2本掘られたんです。それでも、やはりそこまでの温度の高いものが出なくて、ここは断念をされたという経緯を私は伺っております。それで冷泉ということで、何度でしたっけ、29度だか30度だかですか、ということで、ボイラーで加熱をして、温泉提供をされておるということ承っておりますので、しかしながら、これはもう第三者のほうに、ヤード社のほうにしたんだから、それでもうこれは第三者の責任だよということで先ほどから言われておるんですが、今の現状はどうなってるかということ調査をしたり伺ったりされて確認取られた経緯は全くないんでしょうか。ちょっと確認したいと思います。

○議長（山路 有君） 小原総務課長。

○総務課長（小原 義人君） 橋井議員の御質問にお答えします。

現在、温泉は使用しておりませんで、内覧等で何回も見たりはしていますが、実際にどうなってるかというのは、現状は確認できておりません。以上です。

○議長（山路 有君） 橋井議員。

○議員（8番 橋井 満義君） 先ほど総務課長の答弁で分かりました。泉源については関与するべきものではないから、自分のほうではその状況がどういうふうになっておるかは不明であるということであります。50年間貸すということ約束しちゃったんで、もう構いようがないですよ、実際に。全く残念極まりないてんまつになってしまったなというふうに、残念に思うところあります。これは権利関係が他方に移っておりますので、これ以上の答弁をしてもらう必要もないかなというふうに思います。

次に、この5番目の弁護士についてであります。当方もこの問題が発生したときから数回、議会でもあったし、いろんな会議がありまして、そのときに訴訟なり云々と係争問題になったときの対応をする手だてを何ら持っていなかったために、あのときに私も発言をさせていただいて、弁護士費用なり云々をやはり予算計上して、そこで対応をされないといけないよということで申し上げます。それから、その後にこの弁護士費用が、最初に幾らでしたかね、10万円か幾らか、今、50万ぐらいついているのかな、何かそれを忘れましたが、それからスタートしたように私は記憶をしております。

しかしながら、これを今後はこの弁護士のほうにやはり法的対応について動いていただかないと、ここまで来ておりますから、そこがここから動きのアクションが滞るようなことをしてもらっても、全く意味がないわけであります。それで、先方の弁護士は既に準備されて、いつぞや名前もお伺いをしたんですが、今後はうちの弁護士と、まず、先ほど、一番最初申し上げました、事業延長の云々に対する私どもの対応をどう思っているかというのが一番大きなテーマでありますから、その点について、先ほど3者で協議をしておりますということを度々申し上げられたんですが、どこまでその話を当方の法的対応していただいとる弁護士等とお話を進められておる状況なのか、お答えをいただきたいと思っております。

○議長（山路 有君） 小原総務課長。

○総務課長（小原 義人君） 橋井議員の御質問にお答えします。

三者協議といいますのは、ヤードと村と西部広域でございます。こちらについては、これまで20数回重ねてまいりました。その際に必ずうちの弁護士のほうも出席していただいておりますし、ヤード側の代理人弁護士も出席しております。ただ、この三者協議といいますのは、あくまで第三者譲渡に向けての情報交換であったり、それを成就させるために動いてる会でございます。そして、来年の問題になりますと、これは村とヤードさんの問題ということですので、第三者協議の席上ではそのことに触れることはありませんけれども、それ以外の部分でうちの弁護士と代理人弁護士、ヤード側の代理人弁護士が来年度の想定について協議を、協議というか、まだ、今は話合いというか、されているという状況でございます。以上です。

○議長（山路 有君） 橋井議員。

○議員（8番 橋井 満義君） 今、ようやくこのストーリーのスタイルが分かりました。あくまでも三者協議というのは、先ほど小原課長が申されたのは、まず当事者のヤード、そして村、お互いの利害関係ですね、上物、そして土地。それと西部広域、西部広域はあくまでも、私、質問の冒頭で申し上げたとおり、私の認識であれば、西部広域さんは既に私どもの、要するに地主と

たな子の上物と土地物との関係には一切そこにもう私は関係ないと思ってるんですよ。それを協力しながらというようなことを言われても、全くそれで権利関係の金銭的利害の関係というのは発生、私は、しないものですから、あくまでもヤード社と村との法的対応措置を取れるような状況を進めるしか、私はないという観点で申し上げてるものですから、それについての三者協議というのは、ヤード、そして村、そして弁護士、この三者協議の云々で進めるのはどこまで行ってるのかなということを私は気になってるもんですから、その点についてのことはいかがですか、そこなんです。

○議長（山路 有君） 小原総務課長。

○総務課長（小原 義人君） 橋井議員の御質問にお答えします。

その三者協議といいますのは、先ほど申し上げた本来の三者協議以外の部分の弁護士同士の話し合いということだと思いますが、まだ、そこについてはあくまで、今、村長の答弁も申しあげましたように、第三者譲渡を目指して動いてるもんですから、そこまでの具体的な話にはしておりません。ただ、村としての立場というか、契約上のことについて、今、相手方の弁護士にこういう状況ですねというような確認をしているところでございます。以上です。

○議長（山路 有君） 橋井議員

○議員（8番 橋井 満義君） 分かりました。ということは、そこまでの協議が進んでいない、しかしながら、来年の5月の13日にはこの1年間延長の期限は着々と一日一日迫っておりますということが現実の問題であるということが分かったわけであります。この後、3か月、4か月の間にこの話が本当にできるものでしょうか。そこを私は心配して申し上げてるものがこの一般質問でずっとやってきた話です。今の状況から察しますのに、そこからの答弁の進展がどうももう見受けられないというふうに私は判断をしたいなと思っております。ですので、このことはもうそこから先は、また、別の機会に申し上げたいと思っておりますので、本日の質問は、この部分はここまで終わっておきたいと思えます。

それで、今の西部広域の話が出ましたから、私は一つ、最近の動向で西部広域に大きなキーワードを持っておられるのは、やはり米子市さんですから、この最近、米子市さんが同様の案件でアクションを起こされた案件が実はありました。これ、11月19日の日本海新聞なんですが、ここに提示をさせていただきたいと思えます。これ、新聞も私見ておりましたら、米子市皆生、旧老人憩の家跡地というのがこの皆生グランドホテルの境港側のところに昔ありました。そこが更地になりました。これよく見てましたら、私、あれ米子市の土地だと私気づかなかったんですが、この皆生温泉の4丁目の跡地について、土地を購入してたのは不動産業の、名前は言わない

ほうがいいと思います、T社としときましよう、T社、ホテルの開業を計画していることが18日分かったということでもあります。当初はここは、この会社はグランピング施設を整備する予定だったが、コロナ禍明けて需要が下がったとして、ホテルとして活用することにしたということで、来年中のオープン目指すということは、この日吉津の海浜公園のゾーンエリアと結構バッティングするものがここでは計画をされていたなというふうに改めて私思ったところでもあります。それで、今後はこれをホテルに事業転換をして、事業をされるということですね。それで、ちなみにこれは2021年の9月にプロポーザル方式で同社と売買契約を米子市はされておるということでもあります。ということで、私は個人的な見解を述べるとあまりよくないと思いますが、この間、皆生温泉じゃなくて、境港で、皆生でホテルを営んでおられる会社が、境港のインバウンドを対象にしたホテルを開業されて、それは皆生温泉の温泉をそのまま運送をして温浴施設をされたというのがテレビでも出ておったように思います。ということで、今後は、今日も2名の同僚議員から質疑があったと思いますが、海浜公園のこれからの整備計画については、担当は総合政策課だと思えますが、これらの事例と今のグランピング等のやはり市場のニーズ、それから昨今の動向をつぶさに、やはりそこは検討されて、今後の利活用に私は留意されたいなというふうに、担当課長を指名しませんが、お願いをして、この件については終わっておきたいと思えます。今後また、うなばらの件については前向きに善処いただきたいということで終わりたいと思えます。

それから、あと30分ありますけども、早めに終わりたいと思えますが、先にこの村有地の地番の云々が相当ありましたので、私、実はこの間の小学校の田んぼのはでかけも協力者の方がおられて、本当に体験を子供たちがされた、いいことだと思ってます。

しかしながら、面積の約3分の1なり、そこらの少ない面積で栽培された。芋についても、この日吉津2327番地の保育所の芋畑も一緒です。それで、基本的に小学生や保育所の園児たちについても、植えたり収穫するときはいいんですけども、その間の中間のメンテナンス、管理というのはやはりできない。それで、協力者の云々に依頼をしてということで様々な事案があったというので、そこまでには触れませんが、そういうことを今後もずっとこれからやっていけるものかどうなのか。それであれば、例えば、小原総務課長、申し訳ない、小原総務課長の畑と一緒に植えられたほうが、ついぞと言っちゃ失礼なんですけども、そのように地主さんとのふれあいもそこでもできるし、そのようなことも今後は担当課も考えられたほうが私はいいなと思っておりますし、村長、勝手なことなんですけど、処分と言っちはいけませんけども、その点も含めた中で、このメンテナンスをすること、そして、これらに対する職員の負荷、様々な経費を念頭に置

かれた中で、今後の動きについては、何か思うところがあれば一言、見解を私はいただきたいな
とっております。いかがでしょうか。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。先ほど議員もおっしゃいましたように、非常に子供
たちがこの体験をするという上で、非常に有効に活用ができているなというふうに思っています。
もちろんこの協力者の方々があっての事業が成り立っているということは、その上で成り立って
いるということでもありますので、今後も御協力をお願いしながらそういった活用を引き続き努め
てまいりたいというふうに考えております。以上です。

○議長（山路 有君） 橋井議員。

○議員（8番 橋井 満義君） 橋井です。先ほど村長の答弁からしますと、一応、今の現状のま
ま、何とか継続して考えていきたいなということの発言であったというふうに思います。その中
で、この問題をなぜ私も度々申し上げさせていただいてるということは、これは過去にもともの
地主のTさんの土地交換ということが生じて、この土地が出たものであります。ですので、計
画をして、その上に基づいた地理的な問題、場所的なこと、それから地勢の問題、土地の肥沃、
いろいろあると思いますが、それを充足した場所であるということではないけども、仕方なしと
いうことで私は言いたくないんですが、それを何とかやはりしていかなくちゃいけないという苦
肉の策で担当課は考えられたと思いますので、その点について私は評価をしたいと思っておま
すし、よくこうやってやっていただいたなということで、私は感謝、逆に感謝申し上げたいな
というふうに思っています。

しかしながら、これはある一定の役目といえましょうか、そこの部分はある程度完結したなら
ば、次の段階のことはやはり念頭に置いた今後の展開も考えておくべきではないかなというふう
に私は考えておりますので、その点ではいかがなものでしょうかね、現状でということよりも、
今後の動向の考え方、隣接地も結構熱心に田畑つくられてる方もおられたり云々するもので、そ
の点も踏まえた中でいかがでしょうか。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。先ほど答弁を、繰り返しになりますけれども、やは
り現状の活用で引き続き使っていければというふうに今のところ考えているところであります。
以上です。

○議長（山路 有君） 橋井議員。

○議員（8番 橋井 満義君） なかなか村長もそこから先はね、売ってしまえなんて簡単には言

えない話。でも、私は、一つはそこのスタートとして、全部そこから一遍に私のような乱暴者が言うことを村長は受け止められないということを前提に発言申し上げる。あの83番地、83-1、ちっちゃなありますよね、村長。ここは役目を果たしましたので、まず、この辺りから担当の課は分別を出して、一緒に試験圃場なり、云々をしていただける地権者の方、私、この横のほうにもあったように思いますので、その点は、全部やれと、村長、言いませんので、その辺から少しずつ考えていかれるのもどうかなと思いましたので、変なことでしょうかね。その点の見解について一言いただければと思います。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。最初、答弁申し上げました83-1については、現在ちょっと未利用、未活用ということでありますので、引き続きこの活用、どうした方策がいいのかということを考えていきたいというふうに思います。以上です。

○議長（山路 有君） 橋井議員。

○議員（8番 橋井 満義君） 分かりました。ということは、83-1は近隣の土地の所有者とアメーバの、アメーバのようにって、輪を広げて、輪ですよ、輪を広げていただいて、もっと有効活用をしていただけるように努力をしていただければありがたいなというふうに思います。

以上でこれについては終わりたいと思います。

次、最後になりました、ふるさと読本についてであります。これについては、やはり今まで様々な経緯といたしまししょうか、複雑にこれが動いてきたものと、それから、補正を債務負担行為で令和の7、来年度までこれを引きずってきた経緯がやはりここにありますから、私、ちょっと不思議というよりも、ここで確認をしておかなくちゃいけないなと思っておったことがありまして、この時系列でいきますと、今年の9月の定例会で追加補正をして、金額が、幾らでしたっけ、160万円のものが275万円にアップしております。それで、来年度の令和7年度にもこの事業ができるように継続して、お金を出していけるようにされております。そのようなことの前提の中で、まず最初、中身のほうで確認をしておきたいなと思います。

これ、先般議会の全員協議会が12月の2日に開催されまして、昨日、おとといですね、されまして、このようにふるさと読本についての詳細なものが提示されて、説明を賜りました。ちなみにこれ、プロポーザルが今年の6年の11月、たった最近ですけども、プロポーザルを実施、端的にこれ、事業者数は何社でされたんですか。

○議長（山路 有君） 横田教育次長。

○教育次長（横田 威開君） 橋井議員の質問にお答えします。

プロポーザルですが、ホームページ等を活用して一般に公開したところです。その中で手挙げがあったところ、業務の目的、仕様書等でもかなりデジタル等で対応ができるところというふうな細かい指示も出していましたが、手挙げがあったところは、残念ながら1社でございました。その1社の評価によって決定したところです。以上です。

○議長（山路 有君） 橋井議員。

○議員（8番 橋井 満義君） ということは、この2ページの先般の資料の中で、経験等を有する業者からの提案を広く公募し、プロポーザル方式によって受注業者、候補者を特定することを確認したということが記載されておまして、要するにこれをしたんだけど、手挙げする者が1社しかなかったということの出来レースのように私見えるんですけども、それをそのように言っていると、そうではありませんよということが多分返ってくるので、それ以上のことは遡及しませんが、それで、本年の、行程表でいくなら、12月、制作委員会を開催する予定になっておまして、委員会はオブザーバー的役割を担うということでありまして、あくまでもプロポーザルでこれが決定しました、そうすると、委員はオブザーバーの役割でしかありませんから、これで決まって云々ということに対する意見の云々というのは、あくまでも参考意見として承るというふうにこれは見てとれます。

それで、この選定委員の構成なんですけど、ここにおられる教育長、それから総務課長、教育次長、それから教育委員会事務局担当者、小学校長、小学校長は事務局員ではないですから、これはあくまでも、これこそ部外のそこでだと思えます。というのは、この小学校長を除いた人は、この予算額275万ちゅうのはみんな分かる人ですよ。それで、教育委員会の事務局担当者というのは、この間全員協議会のときに説明した彼なんですか、どうなんですか。

○議長（山路 有君） 横田教育次長。

○教育次長（横田 威開君） 橋井議員の質問にお答えします。

質問のあったとおり、全員協議会で説明を行った職員です。以上です。

○議長（山路 有君） 橋井議員。

○議員（8番 橋井 満義君） この時系列のことで私も一つあれなのは、一般質問の通告、今回、質問、私どもしてるんですけども、通告の締切りが11月19日の火曜日が締切りだったんですよ。それで、全員協議会12月の2日にこれ開いて、11月、これ、今日、訂正がありましたよね。3ページの契約、11月22日、一般質問の通告後ですよ、通常でいくと。今井印刷株式会社と契約を締結、ところが、今日、教育長の発言では、これが11月22日に印刷会社のほうのあれなのかどうか何か、向こうの責任のように承っておりますが、これが今週のいっぱい、

5日、今日が4日ですから、5日になるのか6日になるのか、今週中には云々ということの説明がありましたけども、何でこの契約がそんなに延びるわけなんですか。今日4日で、一般質問が終わってから契約される計画だったんですか。この辺、ちょっとつじつまが私合わないの、時系列追及で分からないんですけど。

○議長（山路 有君） 井田教育長。

○教育長（井田 博之君） 橋井議員の御質問にお答えいたします。

1月22日に契約を締結する予定にしておりました。今井印刷の契約担当の御家族に異変がありまして、この22日以前からちょっと出社していらっしやらないことがあって、これはもう個人的なことでございます。延び延びになっておりますが、この日にしましうねということはもうあらかじめ、その前から申合せをしておりましたので、その担当者が出勤できたはなに即契約しましうねということになろうかと思っております。以上です。

○議長（山路 有君） 橋井議員。

○議員（8番 橋井 満義君） 私、ここの、固有名詞、あえて避けておきたいと思っております。この会社、この鳥取県西部では相当な組織の会社ですので、そんなことで、特に契約を締結するのに契約日を変更するなどという、聞いたことのないような話を今伺って、本当にそんなのありかないと思ったり云々して、いや、びっくりした。それを覆してこの話が真っすぐいく云々の話じゃないので、教育長、これ、こういうのは本当にあるようなないような話ですから、今後はこんなのはなしにしてくださいね。家族の云々という話じゃないですよ、これ、対会社ですからね。それだけは申し上げておきます。

それで、あまり長く引きずっていきませんので、最後に、私、この本の今回、もう既に印刷のギャラネタというのはほぼ、私は今のこの状態からすれば、今井印刷のほうは8割以上はもう完成に私は至っているなというふうに思っています。特に巻末の教育長のコメントもこの中にきちっとあってあるし、その中で、私も気になったの、村長のコメントで村の特産品はチューリップの球根、4月に華やかな云々、本当にこれって、あと何年この話ができるのかなと思ったり云々しております。

それと、ちょうど私、家で、私、物持ちが結構いいもんですから、こういうものがありまして、御存じですよ。これ、どこの印刷屋さんがしたか分かりますよね、この同じ会社。それで、これは、ちょっとその前に、ちょっとというより大分前です。私、この年数を調べてみましたら、これが2016年、ミライトひえづがこの中に建ってできてます。平成28年です。これ、前村長のときです。それから、これは別の印刷会社を作ったのが1997年、平成9年、27年前です。

懐かしいものが入ってますよね。これもまだ健在の印刷屋さんです。イージージーという会社ですけど。双壁をなしてる印刷会社です。それはそうとして、こういう基ネタの云々もありますし、この中の抜粋をして云々かなと思ったら、案外そうでもないから、まあいいかと思って、私もそこから先の意地悪な話はやめときたいな思っています。いいものができればいいわけでありまして、それで、最後、教育長の私は私的な見解で結構ですので、これに対する気持ち、意気込みといいましょうか、これが、私、ここで見てとれるのは、日吉津で見つける未来のヒントというのがここにキーワードとしてありますから、これをどうやって日吉津の子供たちにこの将来のブックを体の中にもっと浸透して、日吉津のためにやってくれるという気持ちがあっておつけになられるんだと思いますので、その言葉を聞いて終わりたいと思います。お願いできますか。

○議長（山路 有君） 井田教育長。

○教育長（井田 博之君） 橋井議員の御質問にお答えいたします。

日吉津の将来、未来は子供たちに託されるところでございます。子供たちが日吉津の歴史、出来事、先達がどのように日吉津を構築してきたか、それを学んで現在の姿から、先ほど本答弁でも申し上げましたが、現在の姿から未来にこうあってほしい、そのために自分たちが何ができるかなということをぜひ社会科やふるさとキャリア教育の中でみんなで考えて、お互いに相談し合って、一緒になって日吉津をつくってほしいという気持ちをぜひ高めていってほしいというつもりでこのふるさと読本を制作していきたいというふうに思います。

内容につきましては、制作委員会できちんと相談した内容でございますので、過去と現在ときちんと整理して、未来に向かっていく子供たちを育てていきたいというふうに思っております。御理解いただきますよう、よろしく願いいたします。以上です。

○議長（山路 有君） 橋井議員。

○議員（8番 橋井 満義君） 本日は、教育委員会、そして村長並びに担当の総務課長、並びに様々な方には質問に対する答弁いただき、ありがとうございます。本日の質疑に対して、無礼もあったかもしれませんが、執行部とともに前向きに解決できるように私どもも努めてまいりたいと思いますので、以上のとおりで本日の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（山路 有君） 以上で橋井議員の一般質問を終わります。

○議長（山路 有君） 以上で本日の議事日程は全部終了いたしました。

なお、次回の本会議は、12月9日月曜日、午前9時から議案質疑を行いますので、本議場に

御参集ください。

本日はこれをもって散会いたします。御苦労さまでした。

午後4時22分散会